

ファイル名変換ツール (FileNameConverter)

マニュアル

Ver.1.07

KHFactory

内容

1	はじめに	4
2	機能概要	5
3	インストール・ライセンスについて	7
3.1	インストール・アンインストール	7
3.2	ライセンス	8
3.2.1	ライセンスについて	8
3.2.2	正規版について	8
3.2.3	試供品（試供モード）について	8
3.2.4	ライセンス認証方法	8
3.3	複数実行対応	9
3.4	バージョンアップ	9
3.5	他 PC で実行する場合	9
4	使用方法	10
4.1	リストの表示と複数ファイル名の一部置換	10
4.2	単体ファイル名の変更	12
4.3	変換結果を元に戻す	14
4.4	ファイル名の形式変更	16
4.5	連番ファイル名の自動修正	19
4.6	定期自動実行	24
5	画面説明	26
5.1	メイン画面	26
5.1.1	メイン画面のコンテキストメニュー	29
5.1.2	確認画面	31
5.1.2.1	確認画面のコンテキストメニュー	34
5.2	設定画面	36
5.2.1	「共通」タブ	36
5.2.2	「共通フォーマット」タブ	40
5.2.3	「手動変換」タブ	44

5.2.3.1	「手動変換」タブのコンテキストメニュー	47
5.2.4	「自動修正」タブ	48
5.2.5	「自動修正定期実行」タブ	52
5.2.5.1	「自動修正定期実行」タブのコンテキストメニュー	54
5.2.6	「ログ」タブ	56
5.3	バージョン画面	58
5.4	最小化時の監視画面	60
6	注釈説明	61
6.1	（注 1）日付フォーマットについて	61
6.1.1	日付フォーマットの追加	61
6.1.2	年号の変換テーブルの追加	62
6.1.3	チェックリストのサンプル表示	63
6.1.4	日付の解析について	63
7	あとがき	64
7.1	バグを発見した場合	64
7.2	ご意見・ご要望	64
7.3	各種 URL	64
8	更新履歴	65

1 はじめに

この度は試供版のダウンロードもしくは正規版のお買い上げいただき誠にありがとうございます。

本マニュアルは試供版、正規版共通となっております。なお、試供品は機能制限があります。ご了承ください。

このツールは、ファイル名を一括変換するツールです。

ファイル名の一部の置換から連番や日付の付加、移動、削除などさまざまな形式のファイル名に置き換えることができます。

また、ファイル名を解析して自動的に連番ファイルの誤記や連番桁数の補正、重複ファイルの削除などが出来ます。

使いこなしていただければ幸いです。

2 機能概要

このツールには以下の機能があります。

【手動変換】

- ファイル名の一部の置換
 - ・ 複数のファイルのファイル名を一括して置換
 - ・ 特定の文字列と、ワイルドカードを使用した曖昧な文字列を使用可能
- ファイル名の形式変更（定義値使用）
 - ・ ファイル名の日付部分・連番部分の移動・追加・削除
 - ・ 日付部分・連番部分のフォーマット（前後の付加文字・日付の形式）の変換
 - ・ 設定画面から定義値の入力が可能

【自動修正】

- 連番ファイル名の一部修正
 - ・ 連番以外の部分を統一化
 - ・ 「 - コピー」や「(1)」などコピーやダウンロードの再開などで付く文字列の削除
- 変換後の重複ファイルの優先度を判断しての削除（保持も可）
- 連番の桁数の補正
- 日付・連番位置の補正
- 日付・連番フォーマットの変更
- ダウンロード中ファイルの除外・強制実行
- 確認画面の表示と変換内容の修正
- 指定間隔毎の自動実行

【共通】

- 変換前に戻す機能
 - ・ 1 操作前の状態に戻す
 - ・ ディレクトリ表示の変更まで変更情報を維持し、個別に戻す
- 対象・範囲の指定
 - ・ ファイルのみ、ディレクトリのみ、両方の指定が可能
 - ・ 下位ディレクトリを含むか指定可能
- 日付・連番のフォーマットの指定
- 日付フォーマットの追加、年号の追加
- 日付の西暦⇄年号変換

【起動】

- 複数同時起動（「3.3 複数実行対応」を参照）
 - ・ 同名の二重起動は禁止
 - ・ 別ファイル名による起動は複数可能

【その他】

- ログの出力
- 最小化時、タスクトレイに移動
 - ・ 起動時の動作を選択可能

3 インストール・ライセンスについて

3.1 インストール・アンインストール

インストーラーはありません。

「FileNameConverter.zip」を任意のディレクトリに展開し、ツールの起動は「FileNameConverter.exe」を実行してください。

なお、このツールで使用されるファイルは以下の通りです。

表 1 ファイル一覧

種類	ファイル名	説明
付属	FileNameConverter.exe	実行ファイル
付属	簡易マニュアル.txt	簡略版のマニュアル
付属	ファイル名変換ツールマニュアル.pdf	正規マニュアル（本書・PDF版）
生成	FileNameConverter.conf	設定ファイル（設定画面で保存すると生成）
付属	FileNameConverter.conf_sample	設定ファイルのサンプル
生成	FileNameConverter.key	認証ファイル ライセンスキーを認証すると生成 ※実行ファイルと同じディレクトリに置くこと
生成	FileNameConverter.log	ログファイル（ファイル名は自由に設定可能）
生成	XXX.YYY_old	旧ファイル（1つ前のファイルをバックアップ） ログファイルで生成
ダウンロード	FileNameConverter_NewVer.zip	バージョン画面から最新版をダウンロード

3.2 ライセンス

3.2.1 ライセンスについて

正規版は使用者 1 名に対して 1 ライセンスです。

1 名であれば、複数の PC で使用しても問題ありません。

企業など複数の方が使用する場合、ライセンス契約のお問い合わせをお願いいたします。

なお、正規版のバージョンアップは無料で行えるように作成されております。

3.2.2 正規版について

正規品としてご購入頂いた場合でも、ライセンス認証を行うまでは試供モードで起動します。

ライセンス認証を行うと全機能が解放されます。（「3.2.4 ライセンス認証方法」参照）

3.2.3 試供品（試供モード）について

試供モードは、機能や使い勝手をご評価いただくための物です。

機能の制限はありませんが、実行回数や試用期限の制限があり、PC 間では設定データの引継ぎ（ライセンス認証で引継ぎ可能となる）が出来ません。

ご購入の検討にご利用ください。

正規版のバージョンアップに合わせて試供品もバージョンアップしております。最新の試供品を取得する場合、Vector・ホームページ等から再度ダウンロードしてください。

なお、バージョンが異なる場合、設定ファイルは引き継げませんが、制限がリセットされます。再度ご試供ください。

また、不正使用を検知するように作成しております。不正使用を行った場合、法的措置を取らせていただくことがありますので、ご了承ください。

3.2.4 ライセンス認証方法

ご購入頂くと、ライセンスキーの通知か認証ファイルが送られてきます。

【ライセンスキーの場合】

設定画面からバージョン画面を開き、ライセンスキーを入力してください。認証ファイルが生成され、正規版として動作するようになります。

【認証ファイルの場合】

実行ファイルと同じパスに置くことで、正規版として動作することができます。

3.3 複数実行対応

実行ファイルをコピーし、ファイル名を変更することで複数の同時実行が可能となります。(同ファイル名での二重起動は禁止で、起動済みがアクティブとなる)

設定を引き継ぎたい場合は、設定ファイルをコピーし、ファイル名（.confの前の部分）を変更した実行ファイル名に合わせてください。

設定ファイルが無い場合でも起動可能です。設定を保存した時に生成されます。

なお、正規版で他ディレクトリに実行ファイルをコピーした場合、認証ファイル（ファイル名は固定の為、変更しない）もコピーしてください。

3.4 バージョンアップ

バージョン画面から最新バージョンのファイルをダウンロードすることができます。

ダウンロードすると、実行パスに「(ツール名) _NewVer.zip」として保存されます。

これを展開し、実行ファイルを置き換えることで最新版へのバージョンアップとなります。

なお、最新のバージョン番号は、バージョン画面の「最新バージョン番号」ボタンを押すと取得できます。

※正規版のみ実行可能（無償）、インターネット環境が必要

3.5 他 PC で実行する場合

【試供品モードの場合】

設定ファイルの引継ぎは出来ません。再度設定するか、ライセンスキーの認証をお願いいたします。

【正規品の場合】

実行ファイル、認証ファイル、設定ファイルをコピーすることで、設定を引継ぎ使用することができます。

実行ファイルのみコピーする場合は、再度ライセンスキーを入力してください。

4 使用方法

基本的な使用方法を以下に記載する。細かい機能や設定については「5 画面説明」を参照。

4.1 リストの表示と複数ファイル名の一部置換

複数のファイル名を一括して置換する機能。ワイルドカードを使用して曖昧な文字列の置換も可能。

簡単な手順を以下に記述する。

(例 : 170914_abcdefg_00?.txt → 170914_xyzdefg_00?.txt)

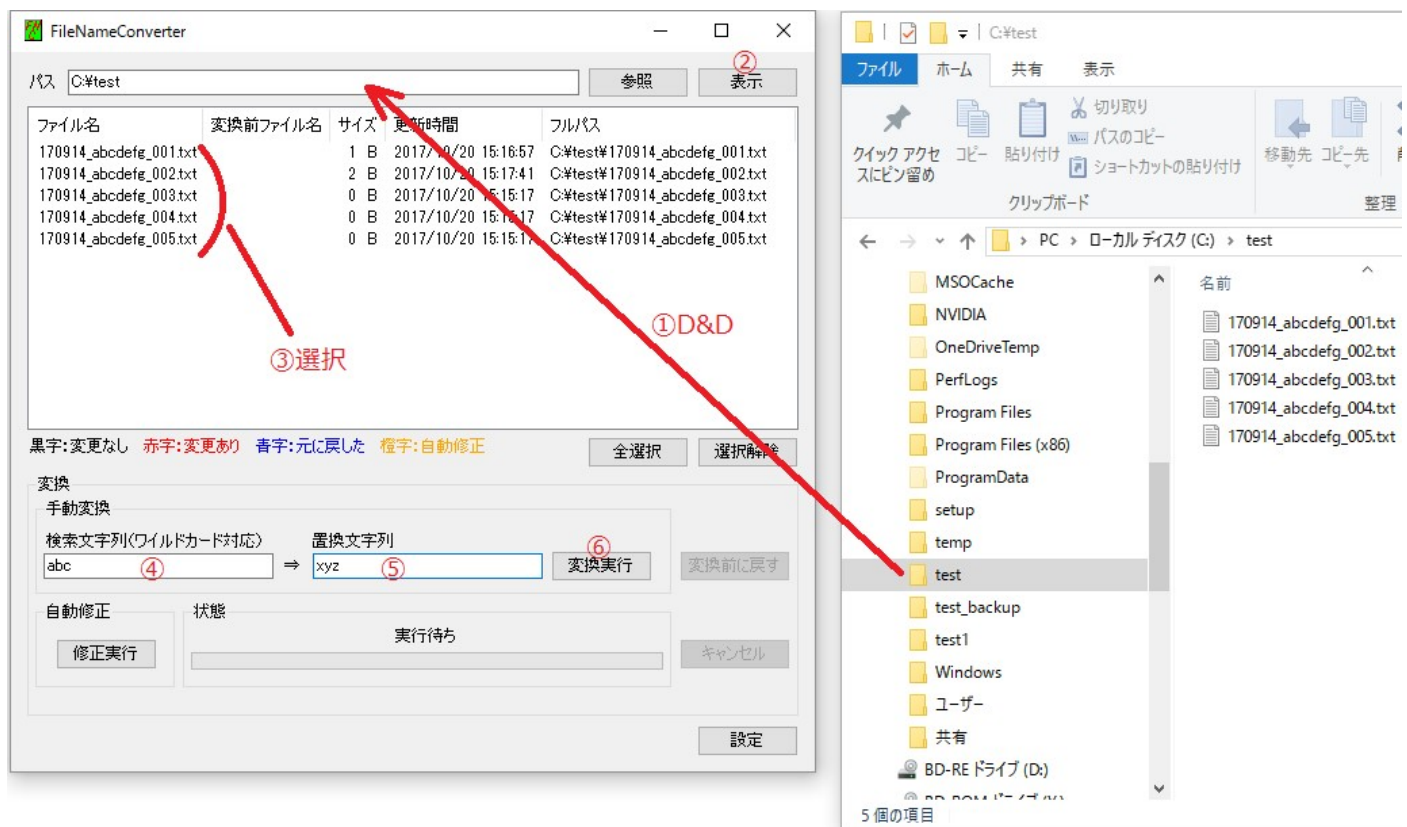


図 1 複数ファイル名の一部置換手順

- ① エクスプローラーから変更したいファイルのあるディレクトリをドラッグアンドドロップ (D&D)。
※手入力や参照からでも設定可能。設定画面で初期値を設定することも可能。
- ② 「表示」ボタンを押下する。
→リスト内にディレクトリ内のファイルが表示される。
※欄内でエンターキーでも可能。
- ③ リストから変更するファイルを選択する。
※Ctrl や Shift キーによる複数選択可能。「全選択」ボタンでも可能。
- ④ 検索文字列に変換前の文字列を入力。
※ワイルドカードを使用可能 (複数かつ制限なし)。
使用例 : a*c → abc、*a*c → 170914_abc、f*01* → fg_001.txt
- ⑤ 置換文字列に変換後の文字列を入力。

※ワイルドカード不可。

⑥ 「変換実行」 ボタンの押下。

→ファイル名が変更され、リストが更新され、「変換前に戻す」 ボタンが活性となる。

リストのファイル名は変換後のファイル名に変わり、変更前ファイル名に元のファイル名が追加される。

4.2 単体ファイル名の変更

単体のファイル名を変更する機能。

簡単な手順を以下に記述する。

リストの表示に関しては「4.1 リストの表示と複数ファイル名の一部置換」を参照。

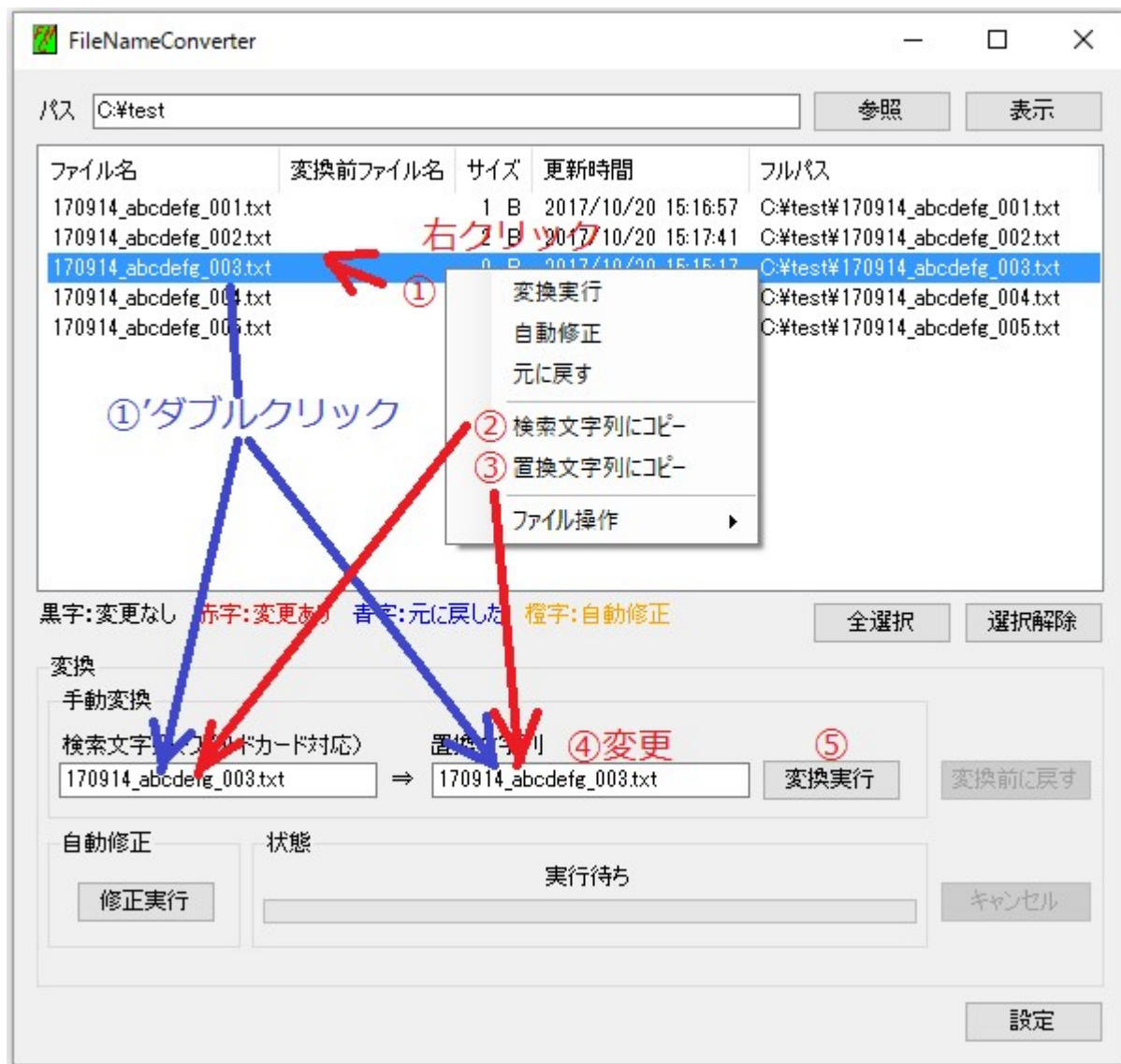


図 2 単体ファイル名の置換手順

【コンテキストメニュー】

- ① 変更したいファイルを選択後、右クリックしコンテキストメニューを表示。
- ② コンテキストメニューの「検索文字列にコピー」を選択。
→検索文字列に選択したファイル名が表示される。
- ③ コンテキストメニューの「置換文字列にコピー」を選択。
→置換文字列に選択したファイル名が表示される。

【ダブルクリック】

①' 変更したいファイルをダブルクリック。

→検索文字列と置換文字列に選択したファイル名が表示される。

【変更・実行】

④ 置換文字列を変更。

⑤ 「変換実行」 ボタンを押下。

→選択したファイルのファイル名が変更される。

4.3 変換結果を元に戻す

変換したファイル名を元に戻す機能。

簡単な手順を以下に記載する。

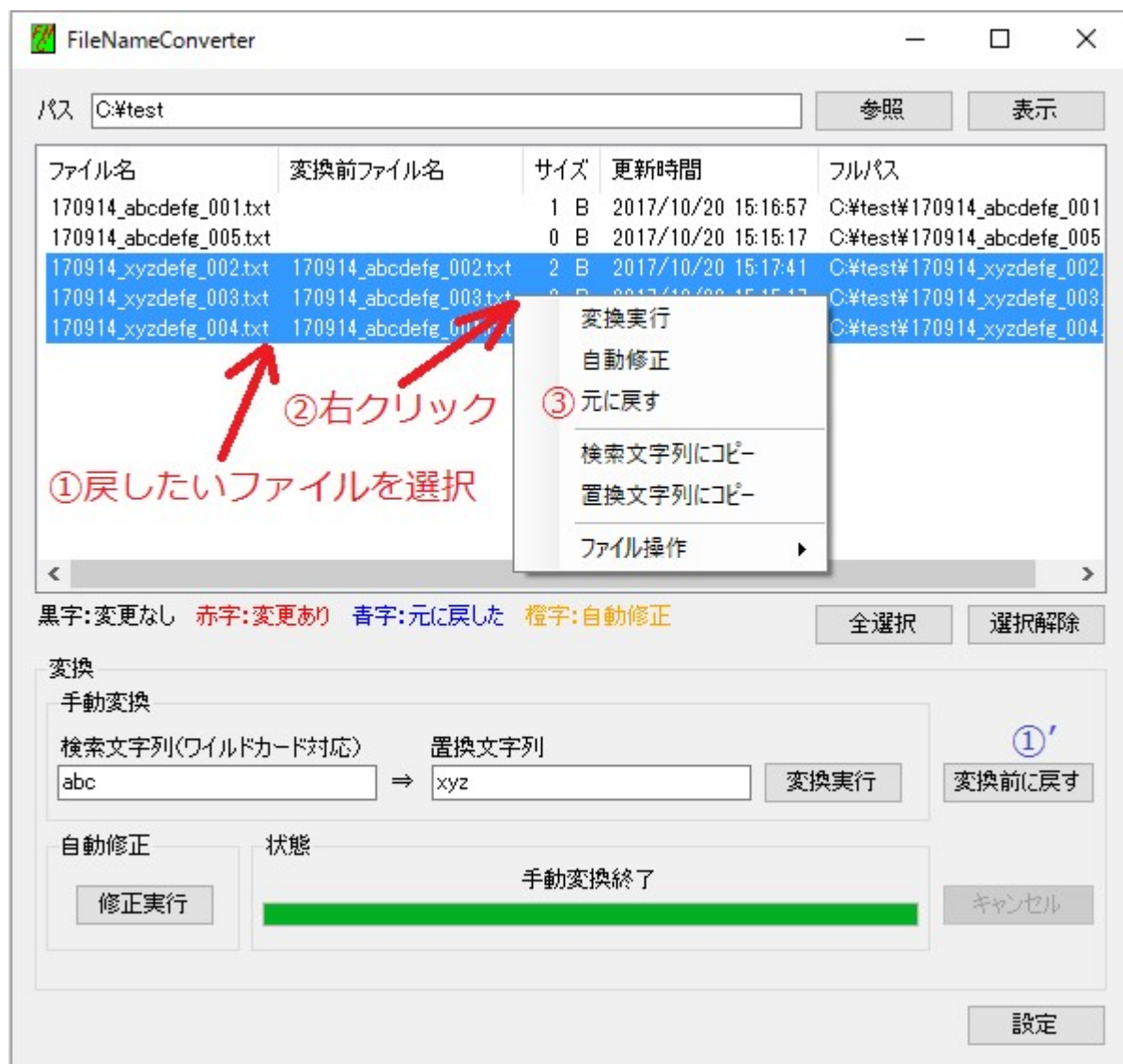


図 3 スリープを回避しダウンロード後にシャットダウン

【個別に戻す場合】

- ① 戻したいファイルを選択する。
- ② マウスの右ボタンをクリックし、コンテキストメニューを表示する。
- ③ コンテキストメニューの「元に戻す」を押下する。
→選択した項目のみ、変換前のファイル名に戻る。

※他のパスを表示する（変換前ファイル名が消える）まで戻すことが可能。

※戻した後に再変換することも可能。

※上書きや重複でごみ箱に移動した場合もごみ箱から戻すことが可能。

※個別に戻した場合、「変換前に戻す」の情報が更新もしくは追加され、「変換前に戻す」を実行すると再変換となるので注意。

※「戻す」順序によって、ファイル名が重複するなど、エラーとなる可能性があるので注意。

【前回の変更を戻す場合】

①'「変換前に戻す」ボタンを押下する。

→前回変更されたファイル全てが変換前のファイル名に戻る。

※別の変換を実行した場合、最後の変更に対する「戻す」処理となるので注意

※「変換前に戻す」を実行前に個別に戻した場合、「変換前に戻す」の情報が更新もしくは追加され、「変換前に戻す」を実行すると再変換となるので注意

4.4 ファイル名の形式変更

ファイル名の日付部分や連番部分を移動したり、新規で付加する機能。

例として、

170914_abcdefgh_001.txt

日付 (6 桁) + 接続文字 + ファイル名 + 接続文字 + 連番 + 拡張子

→

(001)abcdefg_[0914].txt

(連番)+ファイル名+接続文字+[日付(4桁)]+拡張子

に変換する手順を以下に記載する。

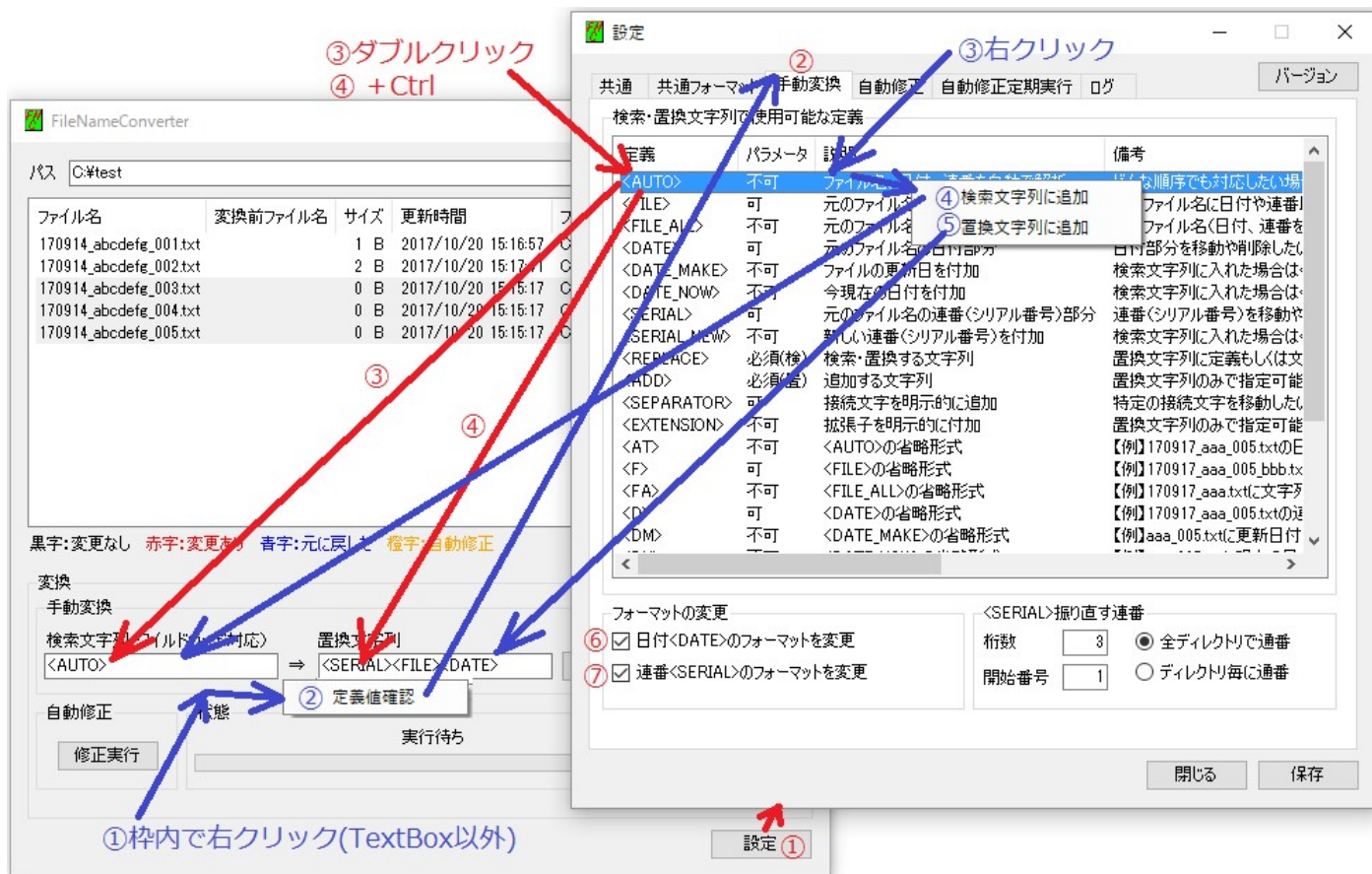


図 4 定義値の入力手順

【ボタン経由で定義値を設定】

- ① 「設定」 ボタンを押下し設定画面を表示する。
- ② 設定画面の「手動変換」 タブを選択する。
- ③ 「使用可能な定義」 で使用する定義をダブルクリック。→メイン画面の検索文字列に定義値を追加
- ④ 「使用可能な定義」 で使用する定義を **Ctrl** もしくは **Shift** キーを押しながらダブルクリック。→メイン画面の置換文字列に定義値を追加

※ダブルクリックの代わりに、選択して (Ctrl or Shift+) リターンキーでも可

【コンテキストメニューを使用して定義値を設定】

- ① 手動変換枠内（テキストボックス以外）で右クリックし、コンテキストメニューを表示する。
- ② 「定義値確認」をクリックする。→設定画面の「手動変換」タブを表示
- ③ 「使用可能な定義」で使用する定義を選択して右クリックし、コンテキストメニューを表示する。
- ④ 「検索文字列に追加」をクリック。→メイン画面の検索文字列に定義値を追加
- ⑤ 「置換文字列に追加」をクリック。→メイン画面の置換文字列に定義値を追加

例として入力する定義値は、

検索：<AUTO> もしくは、<DATE><FILE><SERIAL>

置換：<SERIAL><FILE><DATE>

※手入力でも可。省略形式（<FILE> → <F>など）もあり

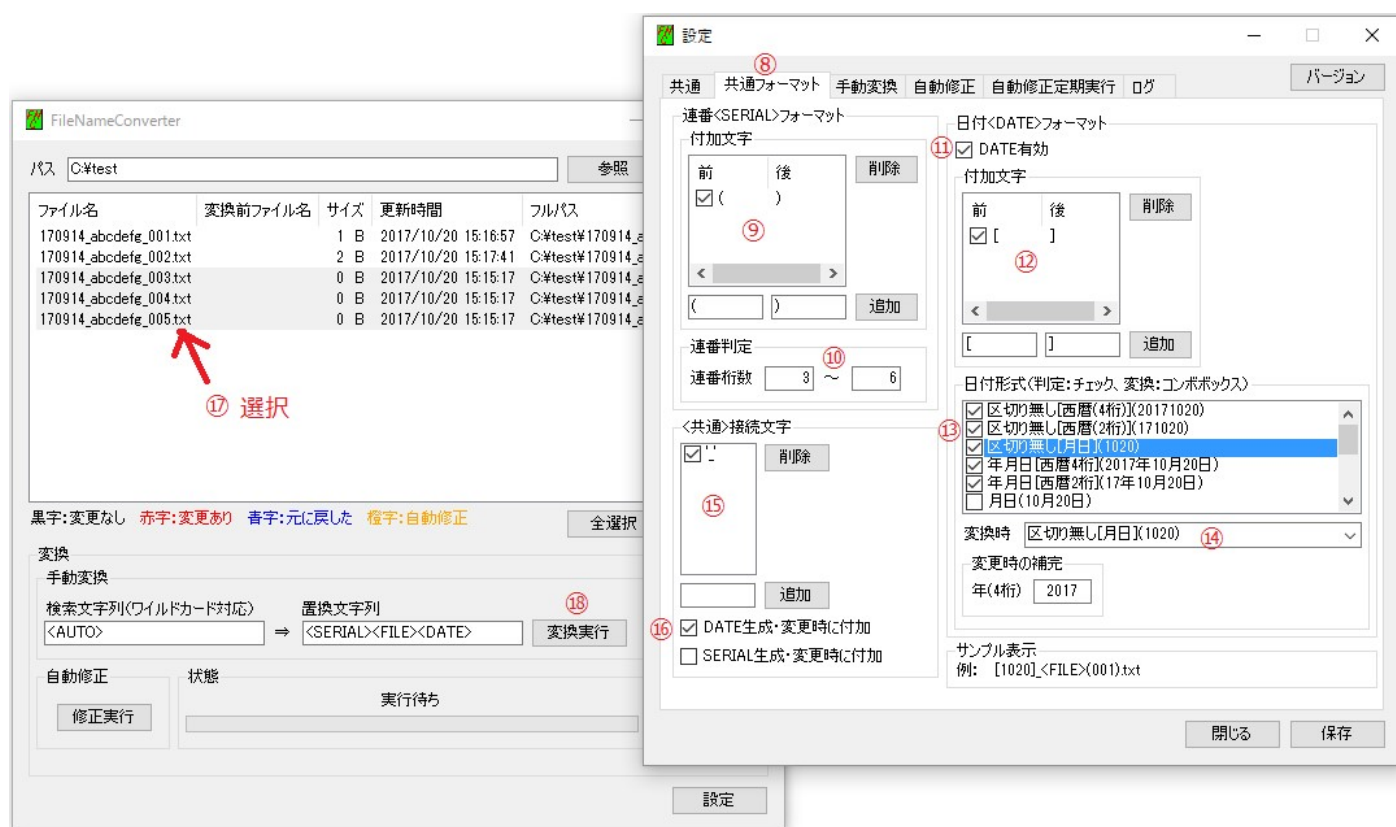


図 5 フォーマット変更手順

【共通設定・変換実行】

- ⑥ 「手動変換」タブの「フォーマットの変更」の「日付<DATE>のフォーマットを変更」をチェックする。
- ⑦ 「手動変換」タブの「フォーマットの変更」の「連番<SERIAL>のフォーマットを変更」をチェックする。
- ⑧ 「共通フォーマット」タブを選択する。
- ⑨ 「連番<SERIAL>フォーマット」の「付加文字」（前：「(」、後：「)」）を追加し、リスト内のチェック

ボックスをチェックする。

※チェックしたものが変換時に付加され、チェックが無いものは判定で使用される。

- ⑩ 「連番判定」の「連番桁数」を設定する。

※例では連番は3桁の為、3を含む範囲に調整する。(デフォルト3～6)

- ⑪ 「日付<DATE>フォーマット」の「DATE有効」をチェックする。

- ⑫ 「日付<DATE>フォーマット」の「付加文字」(前:「[」、後:「]」)を追加し、リスト内のチェックボックスをチェックする。

※チェックしたものが変換時に付加され、チェックが無いものは判定で使用される。

- ⑬ 「日付形式」で「区切り無し[西暦(2桁)](“日付6桁のサンプル”)」のチェックを付ける。

※チェックが無い場合は、日付として判断されないので注意。

- ⑭ コンボボックスで「区切り無し[月日] (“日付4桁のサンプル”)」を選択する。

※ここで選択したものに換換される。

- ⑮ 「<共通>接続文字列」の接続文字(「_」)を追加し、リスト内のチェックボックスをチェックする。

- ⑯ 「<共通>接続文字列」の「DATE生成・変更時に付加」をチェックする。

※例では、連番には付けていないので「SERIAL生成・変更時に付加」はチェックしない。

- ⑰ メイン画面でリストから変換するファイルを選択する。

- ⑱ メイン画面で「変換実行」ボタンを押下する。

その他の変換例:

【フォーマットのみ変換】

検索: <AUTO>

置換: <AUTO>

170914_abcdefg_001.txt → [0914]_abcdefg(001).txt ※共通フォーマット設定に依存

【連番2つの位置を入れ替え】

検索: <SERIAL>aaa<FILE><SERIAL>bbb 置換: <SERIAL>bbb<FILE><SERIAL>aaa

0035_abcdefg_001.txt → 001_abcdefg_0035.txt

※aaa と bbb は順序判定用の文字列 (なんでも可)

【ファイル名のみ取り出して現在の日付と新規連番を付加】

検索: <FILE> or <AUTO>

置換: <DATE_NOW><FILE><SERIAL_NEW>

170914_abcdefg_005.txt → 171025_abcdefg_001.txt

※設定画面の「使用可能な定義」の省略形式の備考に例が記載されている。

4.5 連番ファイル名の自動修正

連番ファイル名を解析し、自動的に修正する機能で、ファイル名の一部間違いの修正や、連番の桁数の補正、修正後に同名となるコピーファイルなどに対し優先度を判定しての統合（上書きや削除）を行う。

なお、この機能は同一ディレクトリ内のファイルに対しての修正か、指定したディレクトリの下位ディレクトリを含めた全体での修正（v1.07～）を選択することが出来る。

例として、

- (1) 170914_abcdefg_002.txt (サイズ小)、170914_abcdefg_002 - コピー.txt (サイズ中) がある
→170914_abcdefg_002 - コピー.txt を 170914_abcdefg_002.txt に変更 (優先順位判定へ)
- (2) 他のファイルと 2 文字異なる 170914_xbcdefz_002.txt (サイズ大) がある (x と z)
→170914_abcdefg_002.txt に変更 (優先順位判定へ)
- (3) 連番桁数が 1 桁多い 170914_abcdefg_0005.txt がある
→全体が 3 桁で、0005 であれば、005 と同義と判断できるため、170914_abcdefg_005.txt に変更 (1005 などの場合は、他のファイル連番桁数を 4 桁に変更)
- (4) 連番・日付の位置が異なる 003_abcdefg_170914.txt、004_abcdefg_170914.txt がある
→全体では日付が前の物が多いため、170914_abcdefg_003.txt、170914_abcdefg_004 に変更
(優先順位判定)
→変換後に 3 ファイルが 170914_abcdefg_002.txt と同名となるため、優先順位を判定。
 - ・ 170914_abcdefg_002.txt (サイズ小)
 - ・ 170914_abcdefg_002 - コピー.txt (サイズ中)
 - ・ 170914_xbcdefz_002.txt (サイズ大)優先順位をサイズで判断すると 170914_xbcdefz_002.txt が優先なので、残り 2 ファイルは削除し、170914_xbcdefz_002.txt が 170914_abcdefg_002.txt となる。

上記を実行するための設定と実行方法を以下に記載する。

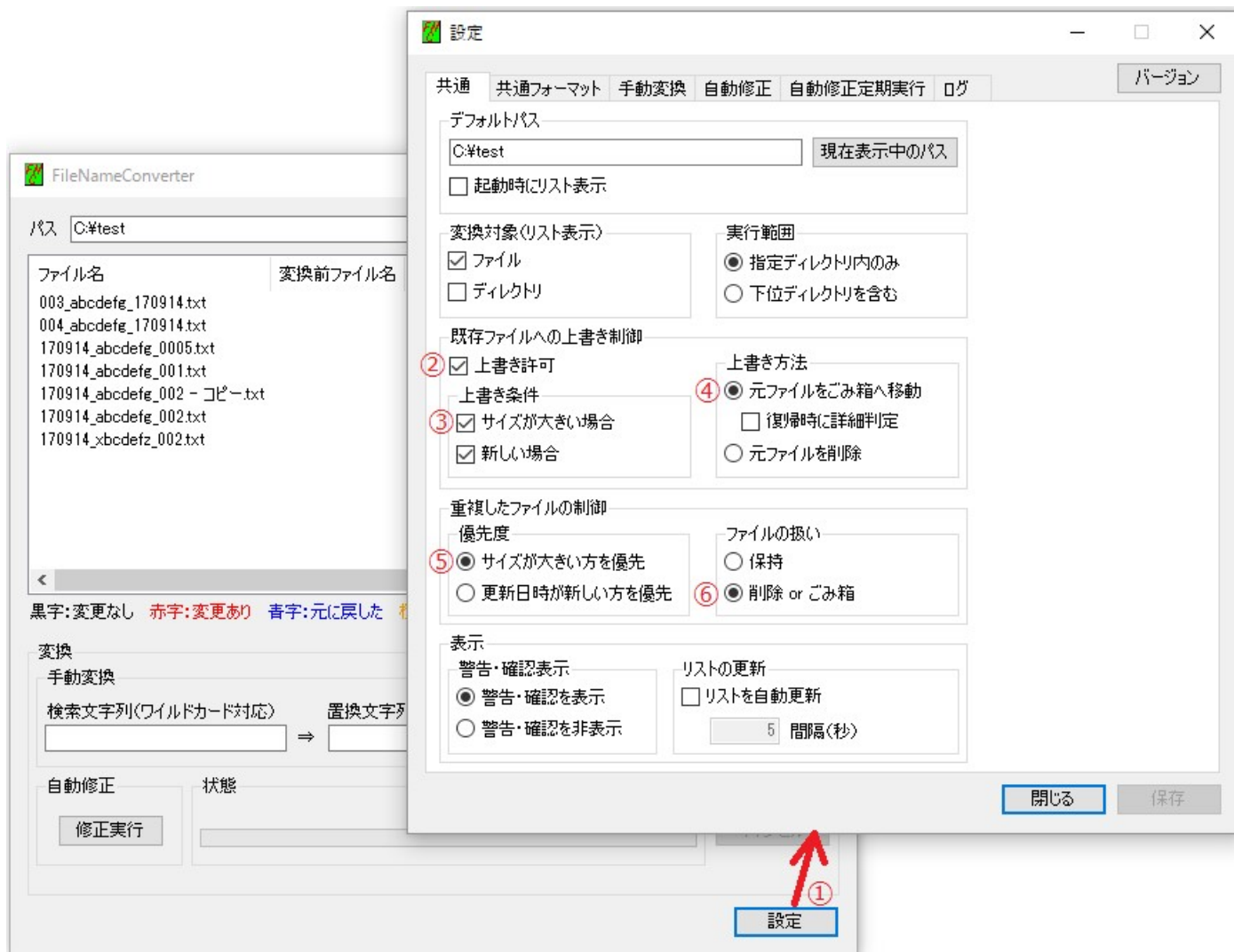


図 6 連番ファイルの自動修正の設定（共通部）手順

【上書き関連（既存ファイルへの対応）】

- ① 「設定」ボタンを押下する。
- ② 「共通」タブ「既存ファイルへの上書き制御」の「上書き許可」をチェックする。
- ③ 「上書き条件」の「サイズが大きい場合」をチェックする。
※AND条件のため、「新しい場合」をチェックしておいてもよい
- ④ 「上書き方法」の「ごみ箱」（「戻す」が可能）か「削除」（「戻す」が不可）を選択する。

【上書き関連（重複ファイルへの対応）】

- ⑤ 「共通」タブ「重複したファイルの制御」の「優先度」の「サイズが大きい方を優先」を選択する。
- ⑥ 「ファイルの扱い」の「削除（ごみ箱）」を選択する。

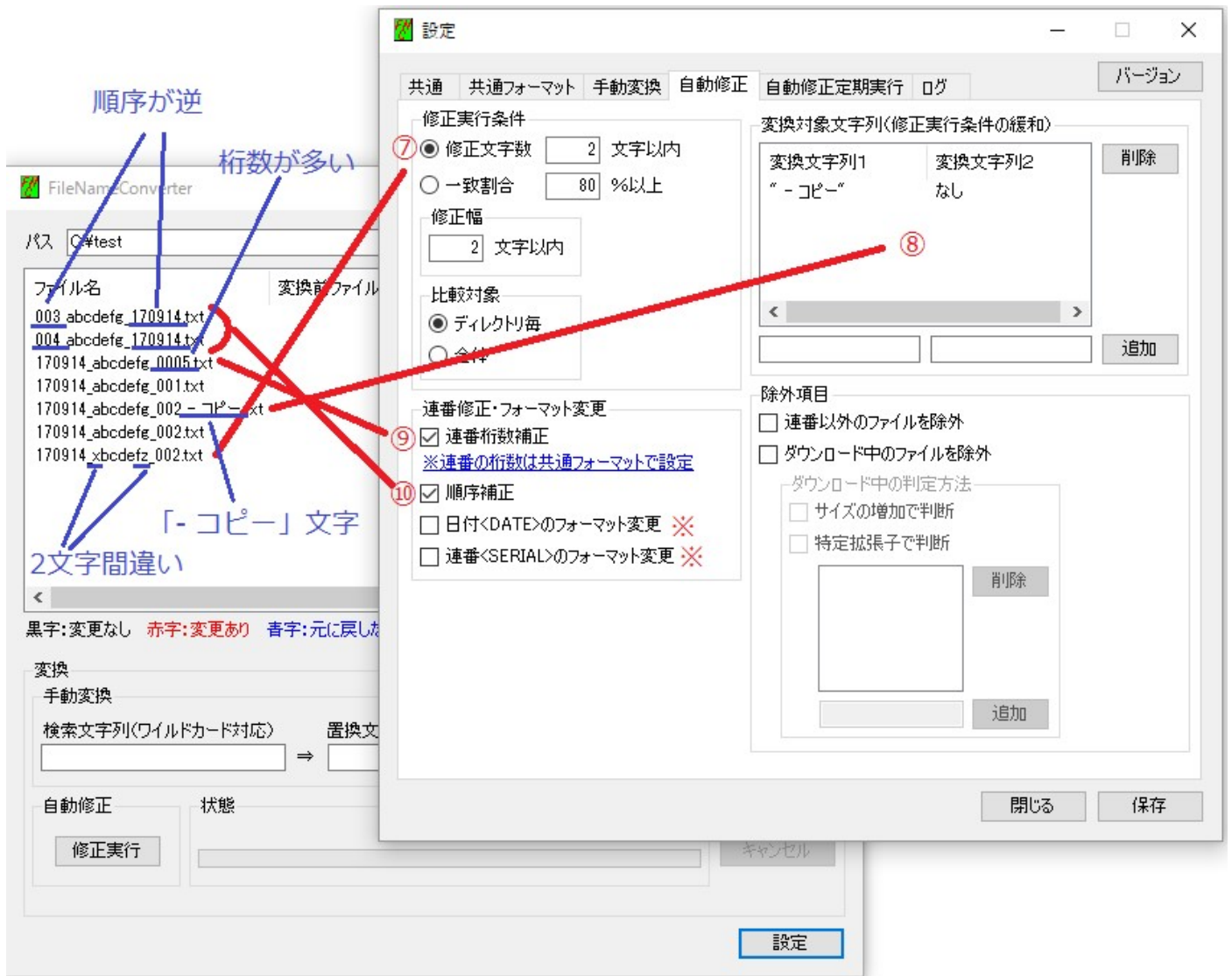


図 7 連番ファイルの自動修正の設定（自動修正）手順

【文字列の修正関連】

- ⑦ 「自動修正」タブの「修正実行条件」で「修正文字数」を選択し、2文字以内とする。
※「一致割合」でも可。拡張子を除くとファイル名部分が7文字で、2文字間違いなので71%以下に設定。
- ⑧ 「変換対象文字列」に1:「- コピー」、2:「」（文字列なし）を追加。
※登録することにより、「- コピー」は「」（文字列なし）と同じと判断し、一致扱いとなる。登録しないと6文字違いの扱いとなり、修正対象とならない。

【連番・フォーマットの修正関連】

- ⑨ 「自動修正」タブの「連番修正・フォーマット変更」の「連番桁数補正」をチェックする。
- ⑩ 「連番修正・フォーマット変更」の「順序補正」をチェックする。
- ⑪ 「共通フォーマット」タブの「連番判定」の「連番桁数」を設定する。
※桁数に合わない数値に関しては文字列として扱われる。

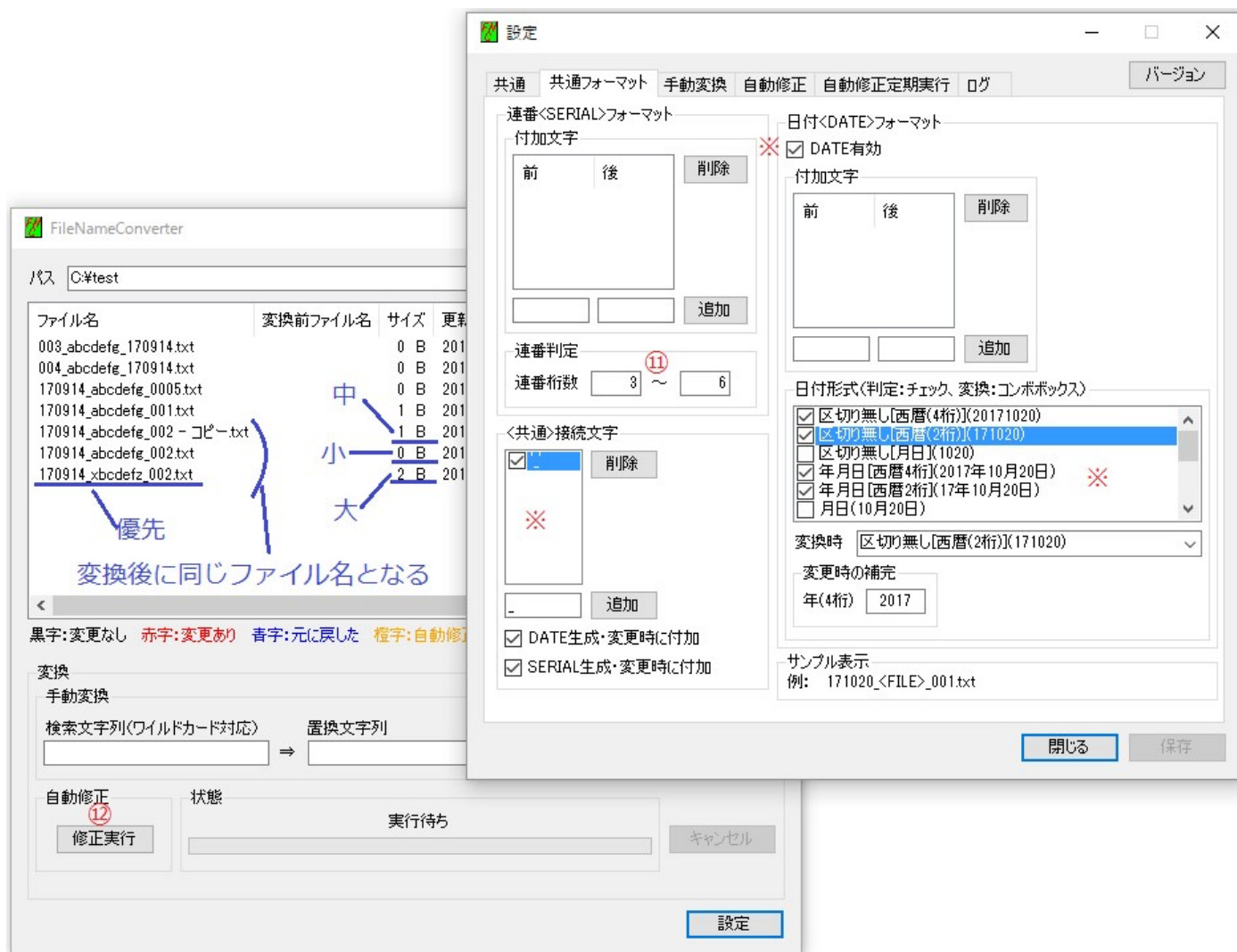


図 8 連番ファイルの自動修正の実行手順

※フォーマットの設定については「4.4 ファイル名の形式変更」を参照

【実行】

- ⑫ メイン画面の「実行」ボタンを押下する。→ 自動修正確認画面が表示される。

※自動修正では選択なしは、全選択と同義。リストを選択すると、選択したファイルのみ実施。



図 9 連番ファイルの自動修正の実行確認手順

【確認】

- ⑬ 自動修正確認画面の「変換実行」ボタンを押下する。→ この時点でファイル名が変更され、結果がメイン画面に反映される。

※結果に問題がある場合、ファイル名を変更や、上書きするファイルの変更などが可能
例として、

- ・「 - コピー」をダブルクリックすると、「 - コピー」が優先され上書き表示となり、2文字間違いのファイルが削除表示となる。
- ・変換を行いたくない場合、選択して「リストから削除」ボタンを押し、結果から削除するか、コンテキストメニューを開き、「対象外」をクリックする。

(詳細は「5.1.2 確認画面」を参照)

※手動変換と同様に日付・連番のフォーマットを変更することも可能。フォーマットの設定方法は手動変換と同様。「自動修正」タブで「日付<DATE>のフォーマット変更」「連番<SERIAL>のフォーマット変更」をチェックする。

4.6 定期自動実行

指定したディレクトリに対し自動修正を定期的の実施する機能。

変換に関わる設定に関しては自動修正の設定を用いる。

なお、実行結果はメイン画面に同じディレクトリが表示されている場合のみ反映されるが、その他は出力されないため、ログ出力をオンにしておくことを推奨。

簡単な手順を以下に記載する。

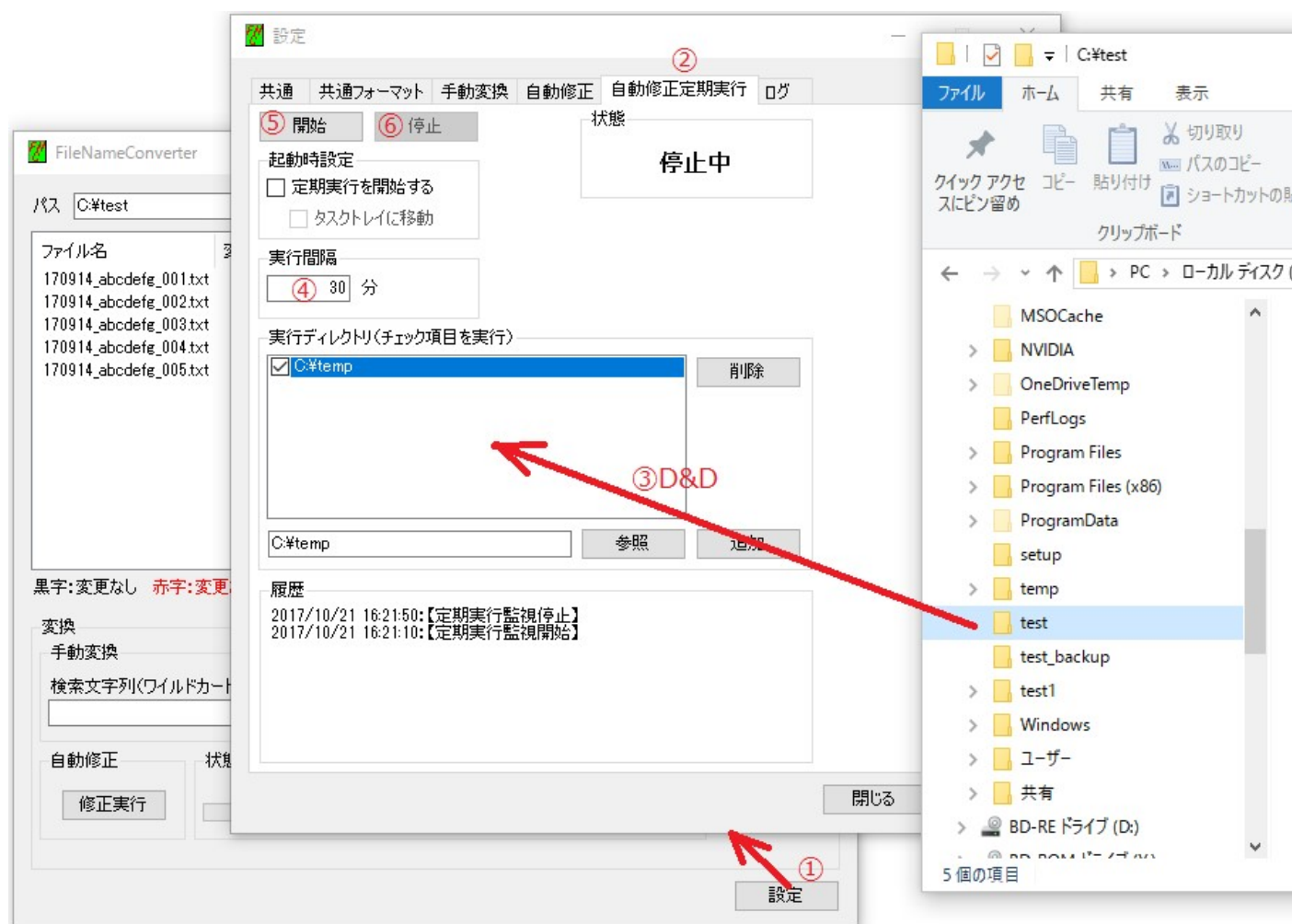


図 10 連番ファイルの自動修正の実行確認手順

【設定・起動】

- ① メイン画面の「設定」ボタンを押下し、設定画面を表示する。
- ② 「自動修正定期実行」タブを選択する。
- ③ 定期実行したいディレクトリをエクスプローラーなどから「実行ディレクトリ」のリストにドラッグ & ドロップする。
※手入力、参照、テキストボックスへのドラッグ&ドロップも可
※チェックが付いているディレクトリのみ実行される。
- ④ 「実行間隔」を設定する。
- ⑤ 「開始」ボタンを押下する。→「履歴」に開始の履歴を表示、「状態」が監視中なる。

【自動実行】

実行間隔の時間が経過すると自動修正が実行され、履歴に自動修正の開始時間、実行ディレクトリ、終了時間が表示される。

※自動実行の実行中は他の変換は実施できない。

※メイン画面に同じディレクトリが表示されている場合、定期自動実行の結果が反映されるが、表示していない場合はログファイルにのみ出力される。

【停止】

⑥ 「停止」 ボタンを押下する。→「履歴」に停止の履歴を表示、「状態」が停止中になる。

※再度開始した場合、タイマはリセットされる。

5 画面説明

5.1 メイン画面

ファイル名を変換する画面。

手動変換と自動修正の実行を行う。

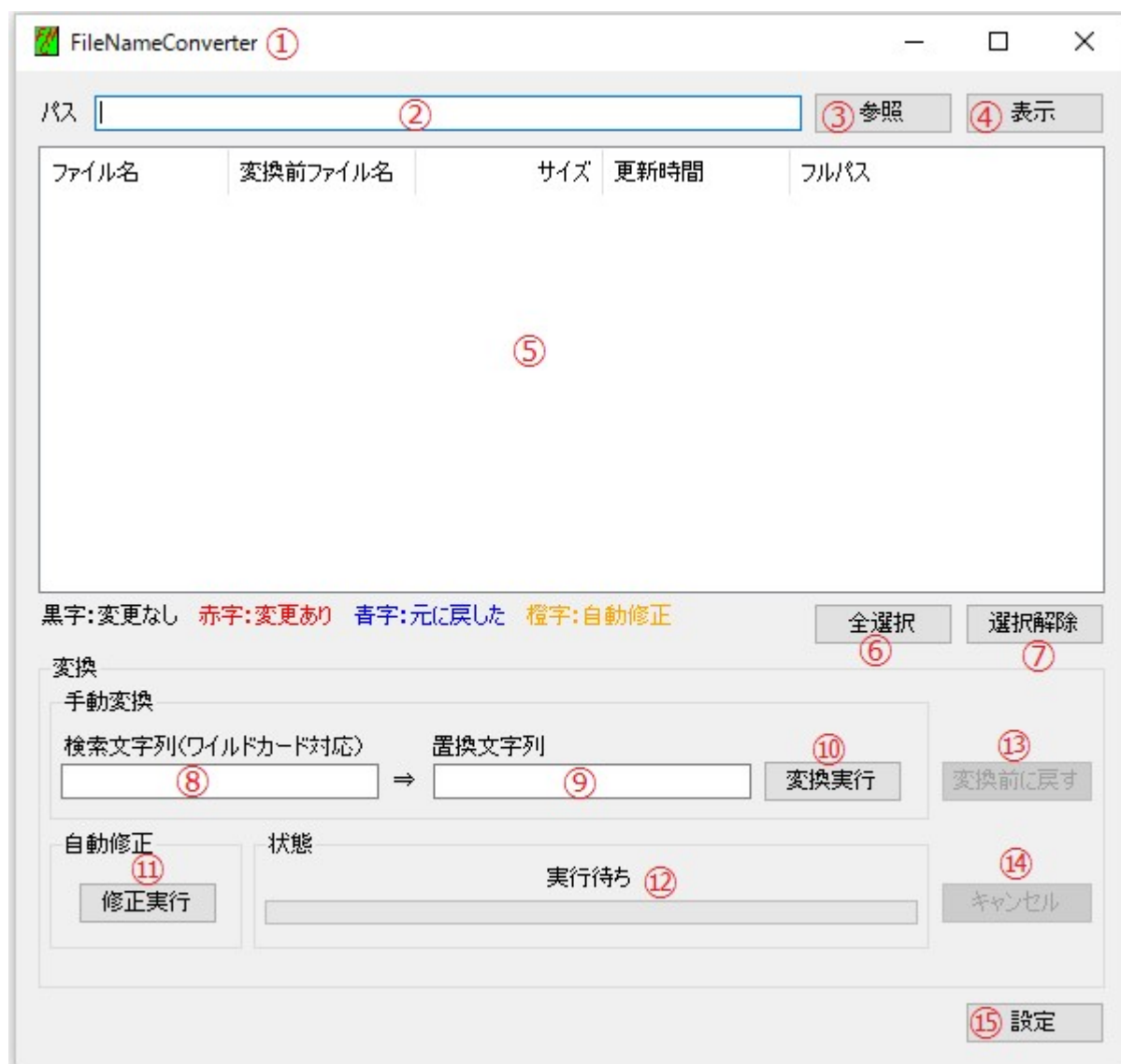


図 11 メイン画面

① 「タイトル」

正規品（認証済み）の場合、実行ファイル名、試供品の場合、実行ファイル名＋試供品モードを表示する。

② 「パス」入力欄

変換を実施するディレクトリのパスを入力する。

※D&D 可能／リターンキーでリスト表示

※ファイル名も入力可能。ただし、リストには1ファイルしか表示されない。

- ③ 「参照」 ボタン
「フォルダーの参照」画面を開き、選択したディレクトリの内容をリストに表示する。
- ④ 「表示」 ボタン
②で入力したディレクトリの内容をリストに表示もしくは再表示（更新）する。
※変換以外でディレクトリ内の内容が変わった場合、自動更新されないため再表示が必要となる。
時間で更新する方法もあり。「」を参照。

- ⑤ ディレクトリ内の「ファイルリスト」
②で入力したディレクトリの内容を表示する。変換を実施すると、変換前のファイル名を表示する。
※コンテキストメニュー有り／複数選択可
※ダブルクリックで検索文字列と置換文字列にファイル名をコピー

表示される項目を下表に示す。

表 2 メイン画面・リスト表示内容

項目	内容
ファイル名	ディレクトリ内に存在するファイルのファイル名。 変換対象に「ディレクトリ」をチェックするとディレクトリ名も表示。 実行範囲を「下位ディレクトリを含む」にすると、下位でもファイル名のみ表示。 ※「5.2.1 「共通」タブ」を参照
変換前ファイル名	変換前のファイル名を表示。 表示があると、変換前に戻すことが可能。
サイズ	ファイルのサイズ。ディレクトリの表示の場合は空欄。
更新日時	ファイルの更新日時。
フルパス	ファイルのフルパス表示。

- ⑥ 「全選択」 ボタン
リストを全て選択する。
- ⑦ 「選択解除」 ボタン
リストの選択を全て解除する。
- ⑧ 「変換」「手動変換」 検索文字列入力欄
変換する前の文字列、もしくは定義値を入力する。
※定義値については「」を参照
- ⑨ 「変換」「手動変換」 置換文字列入力欄
変換後の文字列、もしくは定義値を入力する。

※定義値については「」を参照

⑩ 「変換」「手動変換」「変換実行」ボタン

選択されたファイルに対して手動変換を実施する。

※コンテキストメニューから実行することも可能

⑪ 「自動修正」「修正実行」ボタン

選択無しは全ファイル、選択有りは選択されたファイルに対して自動修正を実施し、確認画面を表示する。

⑫ 状態欄

自動修正の状態を表示する。

⑬ 「変換前に戻す」ボタン

手動変換・自動修正での変換を1つ前の状態に戻す。

※コンテキストメニューから各項目に対して「戻す」を実施した場合、戻す操作が上書きされ、ここからの戻す操作となる。

⑭ 「キャンセル」ボタン

手動変換、自動修正中に有効で、キャンセルする。

⑮ 「設定」ボタン

設定画面を表示する。

5.1.1 メイン画面のコンテキストメニュー

メイン画面で表示されるコンテキストメニューで、ファイルリストと「手動変換」枠内で表示される。

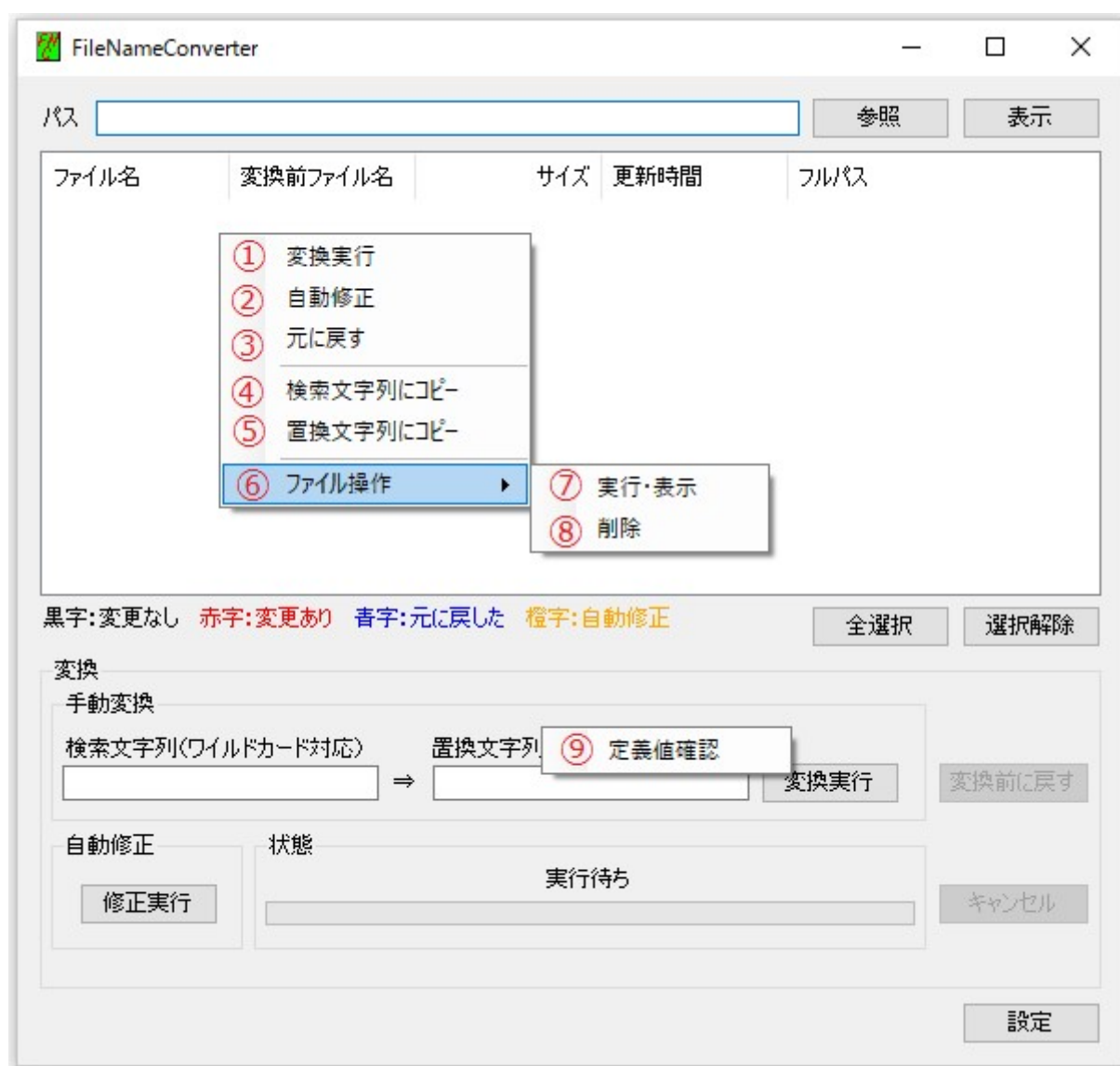


図 12 メイン画面のコンテキストメニュー

【ファイルリスト内】

- ① 「変換実行」
「手動変換」の「変換実行」ボタンと同等。
- ② 「自動修正」
「自動修正」の「修正実行」ボタンと同等。
- ③ 「元に戻す」
選択した項目に対して、戻す処理を行う。
※変換前ファイル名が表示されていない場合は処理されない。

- ④ 「検索文字列にコピー」
選択した先頭のファイルのファイル名を「手動変換」の検索文字列にコピーする。
- ⑤ 「置換文字列にコピー」
選択した先頭のファイルのファイル名を「手動変換」の置換文字列にコピーする。
- ⑥ 「ファイル操作」
ファイル操作関連のサブメニューを表示する。
- ⑦ 「ファイル操作」「実行・表示」
選択したファイルを実行もしくは表示する。
※システム設定に依存
- ⑧ 「ファイル操作」「削除」
選択したファイルを削除する。
※削除方法は「上書き方法」に依存（「5.2.1 「共通」タブ」を参照）

【手動変換枠内】

- ⑨ 「定義値確認」
設定画面の「手動変換」タブを表示する。

5.1.2 確認画面

手動変換で重複等がある場合と自動修正時に表示される確認画面で、サイズの変更が可能。
定期自動修正時と共通設定で警告・確認を非表示にしている場合は表示されない。

自動修正確認

変更リスト(赤文字行は変更不可)

変換前	変換後	状態	連番補正	サイズ	更新日時	比較元	パス
003_abcdefg_170914.txt	[平成29年09月14日]_abcdefg_(003).txt	実行可		0 B	2017/10/20 15:15:17	170914_abcdefg_001.txt	c:\test
004_abcdefg_170914.txt	[平成29年09月14日]_abcdefg_(004).txt	実行可		0 B	2017/10/20 15:15:17	170914_abcdefg_001.txt	c:\test
170914_abcdefg_0005.txt	[平成29年09月14日]_abcdefg_(005).txt	実行可	あり	0 B	2017/10/20 15:15:17	170914_abcdefg_001.txt	c:\test
170914_abcdefg_002 - コピー.txt	[平成29年09月14日]_abcdefg_(002).txt	重複(保持)		2 B	2017/10/20 15:17:41	170914_abcdefg_001.txt	c:\test
170914_abcdefg_002.txt	[平成29年09月14日]_abcdefg_(002).txt	重複(保持)		0 B	2017/10/23 11:19:26	170914_abcdefg_001.txt	c:\test
170914_xbcdefz_002.txt	[平成29年09月14日]_abcdefg_(002).txt	実行可		4 B	2017/10/23 11:19:50	170914_abcdefg_001.txt	c:\test
170914_abcdefg_001.txt	[平成29年09月14日]_abcdefg_(001).txt	実行可		1 B	2017/10/20 15:16:57	170914_abcdefg_001.txt	c:\test

①

黒:実行 青:実行(変更) 赤:非実行

リストから削除

補正

変換後ファイル名

④

③

変更

⑤

⑥

キャンセル

変換実行

図 13 確認画面

① 「変更リスト」

変更の内容が記載される。

※コンテキストメニュー有り、選択で補正の変換後ファイル名を表示、リターンキー・ダブルクリックで状態変更（※「表 4 確認画面の状態」参照）。

各カラムの内容は下表のとおり。

表 3 確認画面のカラム

カラム名	内容
変換前	変換前のファイル名
変換後	変換後のファイル名
状態	実行可能か表示（※詳細は「表 4 確認画面の状態」を参照）
連番補正	連番の補正の有無など連番関連の状態を表示（※詳細は「表 5」を参照）
サイズ	ファイルのサイズ ※ディレクトリの場合は空文字
更新日時	ファイルの更新日時
比較元	変換の元（比較した結果、一致数の多いもの）となったファイル名
パス	ファイルのパス（親ディレクトリ）

状態欄で表示される状態の種類は下表のとおり。

表 4 確認画面の状態の種類

状態	実行	内容	状態変更
実行可	有	修正できるファイル	状態確認 ※
上書き	有	同じファイル名が既に存在しているが、上書き条件を満たしているため、上書きできるファイル	「既に存在」に変更
重複(保持)	無	修正する際に重複するファイルがあり、優先度が低く変更しない（保持する）ファイル	「実行可」「上書き」「既に存在」に変更 優先ファイルを「重複」に変更
重複(削除)	有	修正する際に重複するファイルがあり、優先度が低く余分なファイルとして削除されるファイル	「実行可」「上書き」「既に存在」に変更 優先ファイルを「重複」に変更
既に存在	無	既に存在するファイルがある	「上書き」に変更
ダウンロード中	無	変換するファイルがダウンロード中	状態確認 ※
ダウンロード中(上書き先)	無	上書き先のファイルがダウンロード中	状態確認 ※ 重複ファイルも変更
対象外	無	対象外に設定されている	状態確認 ※
連番補正元	無	桁数補正の際に変換の元になったファイル（変換は無し）	変更無し
変更なし	無	元のファイル名と同じ（この値は出力されないはず）	変更なし

※状態確認：現在のファイルの状態や変換の競合などを確認し、「状態」を設定する。

例：「ダウンロード中」→ダウンロード完了→状態変更操作→「実行可」に変更

連番補正欄で表示される状態の種類は下表のとおり。

表 5 確認画面の連番補正の種類

連番補正	内容
空	連番補正なし
あり	連番補正を行った
補正失敗	連番補正に失敗した
なし（補正元）	連番補正の際に変換の元になったファイル（桁数が多いもの）を示す
桁数不一致	連番桁数が異なるが、補正しないもの

② 「リストから削除」 ボタン

選択した項目をリストから削除する。変換を行わない場合に使用する。

※削除された項目は、再度変換を行わないと表示されない。削除したくないが変換を行いたくない場合、コンテキストメニューに「対象外設定」があるため、そちらを使用すること。

③ 「補正」「変換後ファイル名」 入力欄

選択した項目の変換後のファイル名を変更したい場合に、ファイル名を編集する。

④ 「補正」「変更」 ボタン

選択した項目の変換後のファイル名を③で入力したファイル名に変更する場合に押下する。

⑤ 「キャンセル」 ボタン

全ての変換をキャンセルする場合に押下する。

⑥ 「変換実行」 ボタン

全ての変換を実行する場合に押下する。

5.1.2.1 確認画面のコンテキストメニュー

確認画面の「変更リスト」で表示されるコンテキストメニュー。

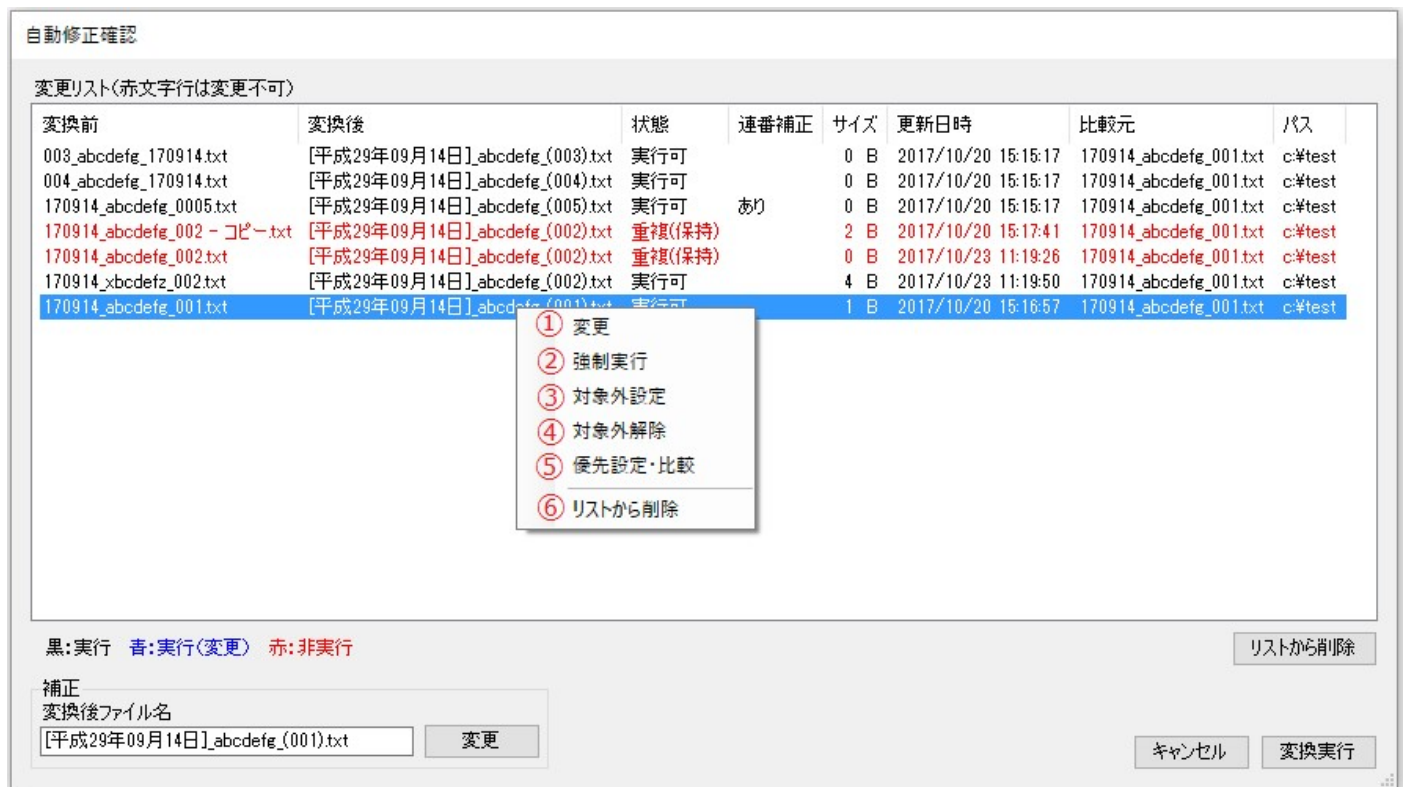


図 14 確認画面のコンテキストメニュー

① 「変更」

選択した項目の状態変更操作（選択後のリターンキー、ダブルクリック）と同等。

（※詳細は「表 4 確認画面の状態」を参照）

② 「強制実行」

選択した項目のダウンロード中などの実行不可の状態（赤文字）を、強制的に「実行可」「上書き」に変更する。

③ 「対象外設定」

選択した項目を変換の対象外とする。

④ 「対象外解除」

選択した項目の対象外を解除する。

解除した項目は、「状態確認」（※詳細は「表 4 確認画面の状態」を参照）で「状態」が初期化される。

⑤ 「優先設定・比較」

1 項目選択した場合、選択した項目を優先とし、状態を「実行可」「上書き」「既に存在」に変更す

る。

複数項目を選択した場合、選択した項目内で、優先度が高いものを判定し、高い項目の状態を「実行可」「上書き」「既に存在」、低い項目を「重複」に変更する。

⑥ 「リストから削除」

「リストから削除」ボタンと同等。

※削除された項目は、再度変換を行わないと表示されない。

5.2 設定画面

各設定を行う画面。複数のタブで管理されている。

5.2.1 「共通」タブ

手動変換と自動修正で共通する設定を行う画面。

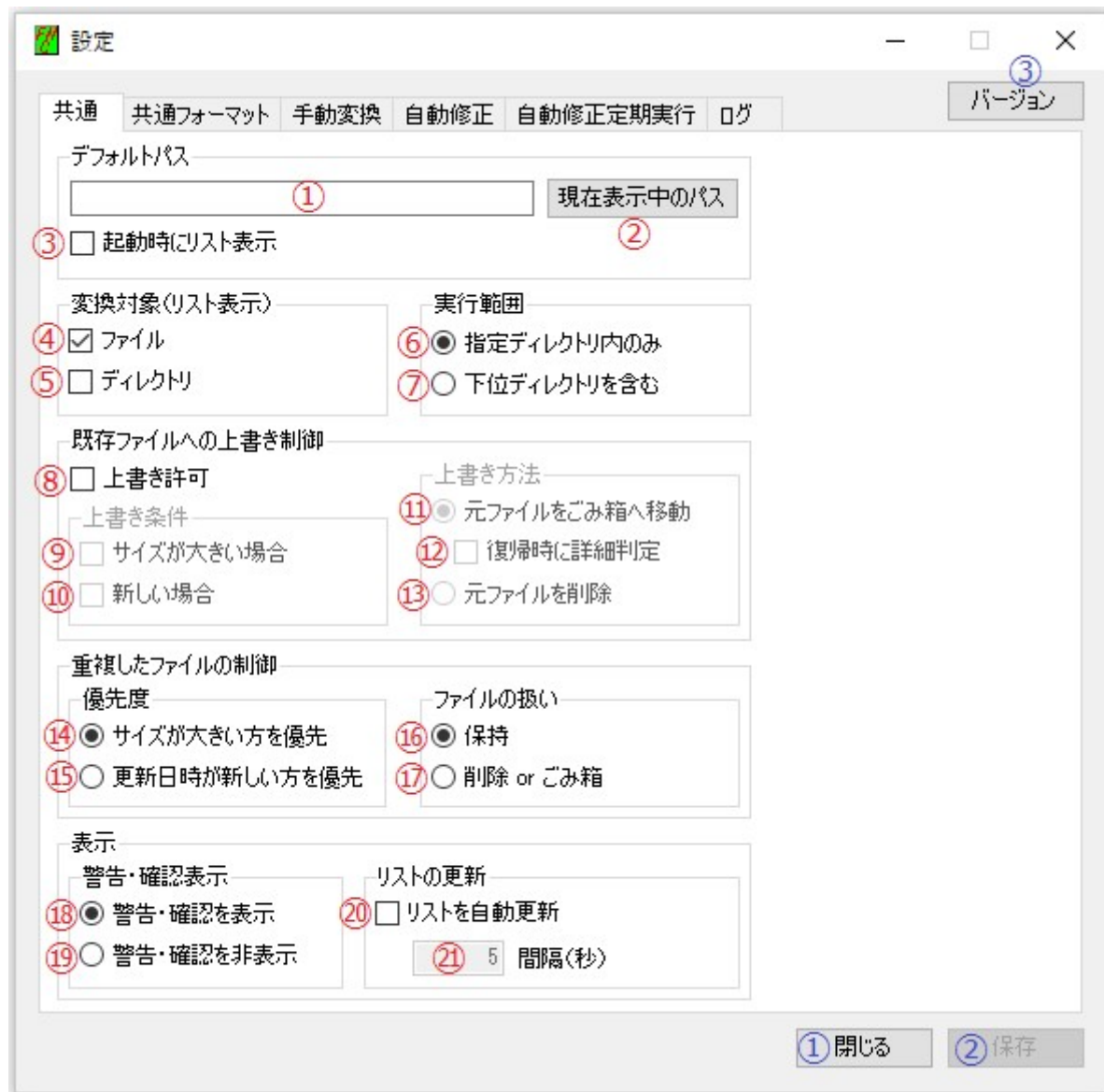


図 15 設定画面「共通」タブ

- ① 「デフォルトパス」パス入力欄
初期状態としてメイン画面のパス入力欄に表示するパスを入力する。
- ② 「デフォルトパス」「現在表示中のパス」ボタン
メイン画面のパス入力欄に現在表示されているパスを「デフォルトパス」パス入力欄にコピーする。
- ③ 「デフォルトパス」「起動時にリスト表示」チェックボックス

起動時に、リストを表示したい場合にチェックする。

※チェックしない場合、パスの表示のみのため、表示ボタン等でリストを表示する。

- ④ 「変換対象 (リスト表示)」 「ファイル」 チェックボックス
ファイルをメイン画面のリスト表示に含める場合にチェックする。
※リストに表示されていないものは変換対象とならないので注意。(定期自動実行でも同様)
※両方チェックを外すことは出来ず、必ずどちらかがチェックされる
- ⑤ 「変換対象 (リスト表示)」 「ディレクトリ」 チェックボックス
ディレクトリをメイン画面のリスト表示に含める場合にチェックする。
※リストに表示されていないものは変換対象とならないので注意。(定期自動実行でも同様)
※両方チェックを外すことは出来ず、必ずどちらかがチェックされる
- ⑥ 「実行範囲」 「指定ディレクトリ内のみ」 ラジオボタン
指定ディレクトリ直下のファイルのみ変換を行う場合にチェックする。
- ⑦ 「実行範囲」 「下位ディレクトリを含む」 ラジオボタン
指定ディレクトリ直下のファイルおよび下位ディレクトリ (制限なし) 内のファイルの変換を行う場合にチェックする。
- ⑧ 「既存ファイルへの上書き制御」 「上書きを許可」 チェックボックス
変換した結果が既存ファイルと同名となった場合、既存ファイルに変更したファイルを上書きする場合にチェックする。
- ⑨ 「既存ファイルへの上書き制御」 「上書き条件」 「サイズが大きい場合」 チェックボックス
上書きを行う条件として、サイズが大きいファイルを上書きする場合にチェックする。
※⑩とはAND条件
- ⑩ 「既存ファイルへの上書き制御」 「上書き条件」 「新しい場合」 チェックボックス
上書きを行う条件として、更新日時が新しいファイルを上書きする場合にチェックする。
※⑨とはAND条件
- ⑪ 「既存ファイルへの上書き制御」 「上書き方法」 「元ファイルをごみ箱へ移動」 ラジオボタン
上書き時に、既存のファイルをごみ箱へ移動する場合にチェックする。
※「戻す」操作で復帰可能
- ⑫ 「既存ファイルへの上書き制御」 「上書き方法」 「元ファイルをごみ箱へ移動」 「復帰時に詳細判定」 チェックボックス
ごみ箱へ移動したファイルを復帰させる場合、ごみ箱の中身から削除されたことを確認する場合にチェックする。

※チェックすると戻す処理をキャンセルした場合に結果の整合性を取るための判定処理行う（v1.06では標準動作）。ただし、ごみ箱の中身が多い場合、処理時間が大幅に増加するため、判定処理を行わない対応としてチェックボックス追加している。

- ⑬ 「既存ファイルへの上書き制御」「上書き方法」「元ファイルを削除」ラジオボタン
上書き時に、既存のファイルを削除する場合にチェックする。
※「戻す」操作で復帰不可
- ⑭ 「重複したファイルの制御」「優先度」「サイズが大きい方を優先」ラジオボタン
ファイル名を変換後に重複した場合、優先されるファイルをサイズで判断する場合にチェックする。
- ⑮ 「重複したファイルの制御」「優先度」「更新日時が新しい方を優先」ラジオボタン
ファイル名を変換後に重複した場合、優先されるファイルを更新日時で判断する場合にチェックする。
- ⑯ 「重複したファイルの制御」「ファイルの扱い」「保持」ラジオボタン
ファイル名を変換後に重複した場合に、重複したファイルを保持する（変換しない）場合にチェックする。
- ⑰ 「重複したファイルの制御」「ファイルの扱い」「削除 or ごみ箱」ラジオボタン
ファイル名を変換後に重複した場合に、重複したファイルを上書きや削除（or ごみ箱へ移動）する場合にチェックする。
- ⑱ 「表示」「警告・確認表示」「警告／エラーを表示」ラジオボタン
実行確認 エラーが発生した場合に、エラー表示を行う場合にチェックする。
- ⑲ 「表示」「警告・確認表示」「警告／エラーを非表示」ラジオボタン
エラーが発生した場合に、エラー表示を行わない場合にチェックする。
※結果はリスト上で確認可能
- ⑳ 「表示」「リストの更新」「リストを自動更新」チェックボックス
メイン画面のリストを定期的に更新する場合にチェックする。
※変換以外でファイルが更新された場合に有効。チェックしない場合は、手動で更新が必要。
※差分のみ変更するため、表示のちらつきは最小限。
- 21 「表示」「リストの更新」「リストを自動更新」間隔入力欄（秒）
メイン画面のリストを更新する間隔（秒）を入力する。

【共通】

- ① 「閉じる」ボタン

設定画面を閉じる。

※設定が変更されている場合は、設定保存の確認画面を表示。

② 「保存」 ボタン

設定を保存する。

※設定が変更されると有効となる

③ 「バージョン」 ボタン

バージョン画面を表示する。

5.2.2 「共通フォーマット」タブ

手動変換と自動修正の変換で使用する連番・日付のフォーマットの設定を行う画面。

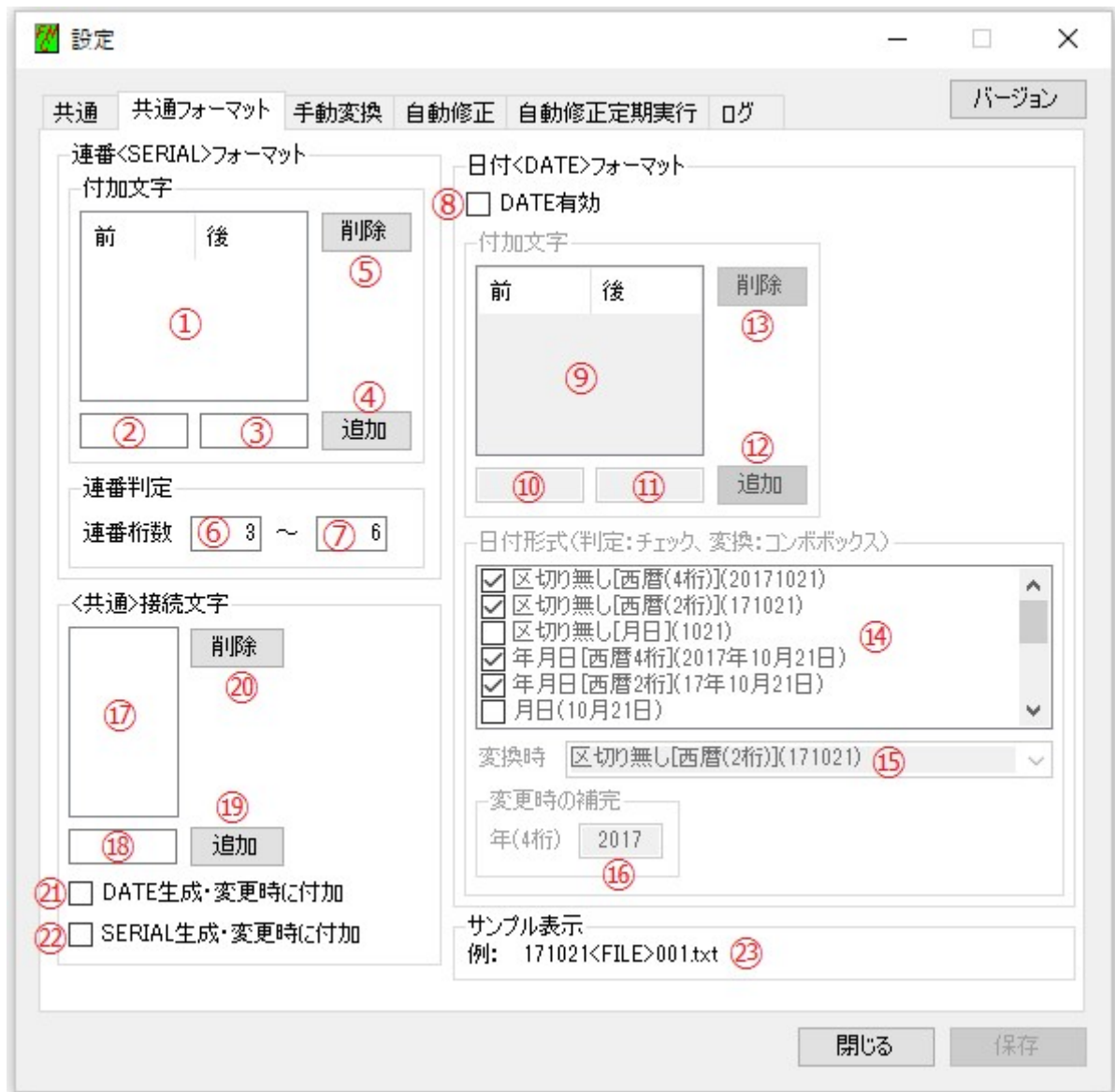


図 16 設定画面「共通フォーマット」タブ

- ① 「連番<SERIAL>フォーマット」「付加文字」チェックリスト
連番の前後に付ける文字列のリストで、チェックしている項目が変換時に適用される。
なお、選択できるのは1つのみ。チェック無しの場合は付加文字無しの扱いとなる。
※判定でも使用されるため、可能性が有るものは追加しておくこと。
- ② 「連番<SERIAL>フォーマット」「付加文字」前文字列入力欄
連番の前に付ける文字列を入力する。
※後文字列が有れば、空でも可。複数文字でも可。
※入力しただけでは使用できないため、「追加」ボタンでリストに追加すること。

- ③ 「連番<SERIAL>フォーマット」「付加文字」後ろ文字列入力欄
連番の後ろに付ける文字列を入力する。
※前文字列が有れば、空でも可。複数文字でも可。
※入力しただけでは使用できないため、「追加」ボタンでリストに追加すること。
- ④ 「連番<SERIAL>フォーマット」「付加文字」「追加」ボタン
前文字列、後文字列で入力された文字列をリストに追加する。
※前後共に重複した登録は不可。
※挿入箇所は文字が多い順。
- ⑤ 「連番<SERIAL>フォーマット」「付加文字」「削除」ボタン
リストで選択されている項目を削除する。
- ⑥ 「連番<SERIAL>フォーマット」「連番判定」最小桁数入力欄
連番として有効となる桁数の最小値を入力する。
※範囲外の場合は文字列をして扱われる
- ⑦ 「連番<SERIAL>フォーマット」「連番判定」最大桁数入力欄
連番として有効となる桁数の最大値を入力する。
※範囲外の場合は文字列をして扱われる
- ⑧ 「日付<DATE>フォーマット」「DATE 有効」チェックボックス
日付のフォーマットを有効にする場合にチェックする。
※日付はあり得ない値（13 月とか 32 日とか）は連番として扱うようにしているが、日付（数値のみ）と連番は、共に数値であり、変換が上手くいかない場合はチェックを外すこと。なお、日付（数値のみ）は 4、6、8 桁のフォーマットの為、連番はそれ以外の桁数が望ましい。
- ⑨ 「日付<DATE>フォーマット」「付加文字」チェックリスト
日付の前後に付ける文字列のリストで、チェックしている項目が変換時に適用される。
なお、選択できるのは 1 つのみ。チェック無しの場合は付加文字無しの扱いとなる。
※判定でも使用されるため、可能性が有るものは追加しておくこと。
- ⑩ 「日付<DATE>フォーマット」「付加文字」前文字列入力欄
日付の前に付ける文字列を入力する。
※後文字列が有れば、空でも可。複数文字でも可。
※入力しただけでは使用できないため、「追加」ボタンでリストに追加すること。
- ⑪ 「日付<DATE>フォーマット」「付加文字」後ろ文字列入力欄
日付の後ろに付ける文字列を入力する。
※前文字列が有れば、空でも可。複数文字でも可。

※入力しただけでは使用できないため、「追加」ボタンでリストに追加すること。

- ⑫ 「日付<DATE>フォーマット」「付加文字」「追加」ボタン
前文字列、後文字列で入力された文字列をリストに追加する。
※前後共に重複した登録は不可。
※挿入箇所は文字が多い順。
- ⑬ 「日付<DATE>フォーマット」「付加文字」「削除」ボタン
リストで選択されている項目を削除する。
- ⑭ 「日付<DATE>フォーマット」「日付形式」チェックリスト
日付と判断するフォーマットの一覧で、チェックしたフォーマットが日付と判定される。
※チェックが少なくすることにより、解析時間が短縮される。
※フォーマットは追加可能（注1）
- ⑮ 「日付<DATE>フォーマット」「日付形式」変換時コンボボックス
フォーマットを変換時の変更後のフォーマットを選択する。
※選択できるフォーマットはチェックリストにあるフォーマット。
- ⑯ 「日付<DATE>フォーマット」「日付形式」「変更時の補正」西暦入力欄
桁数の少ない日付から多い日付に変換時に付加する年部分の値を入力する。
※西暦4桁固定（注1）
- ⑰ 「<共通>接続文字」チェックリスト
連番・日付とファイル名間に付ける文字のリストで、チェックしている項目が変換時に適用される。
なお、選択できるのは1つのみ。チェック無しの場合は接続文字無しの扱いとなる。
※判定でも使用されるため、可能性が有るものは追加しておくこと。
- ⑱ 「<共通>接続文字」文字入力欄
連番・日付とファイル名間に付ける文字（1文字）を入力する。
※複数文字を入力した場合、1文字ずつまとめて登録される。
※入力しただけでは使用できないため、「追加」ボタンでリストに追加すること。
※判定でも使用されるため、可能性が有るものは追加しておくこと。
- ⑲ 「<共通>接続文字」「追加」ボタン
入力欄に入力された文字をリストに追加する。
※複数文字を入力した場合、1文字ずつ登録される。
- ⑳ 「<共通>接続文字」「削除」ボタン
リストで選択されている項目を削除する。

- 21 「<共通>接続文字」「DATE 生成・変更時に付加」チェックボックス
日付のフォーマット変更時に接続文字を付加する場合にチェックする。
※リストにチェックが無い場合は、付加されない。
- 22 「<共通>接続文字」「SERIAL 生成・変更時に付加」チェックボックス
連番のフォーマット変更時に接続文字を付加する場合にチェックする。
※リストにチェックが無い場合は、付加されない。
- 23 「サンプル表示」欄
現在の設定で変換されるフォーマットを表示する。
※連番桁数は「手動変換」タブの「<SERIAL>振り直す連番」に依存。

5.2.3 「手動変換」タブ

手動変換固有の設定と定義値の確認を行う画面。

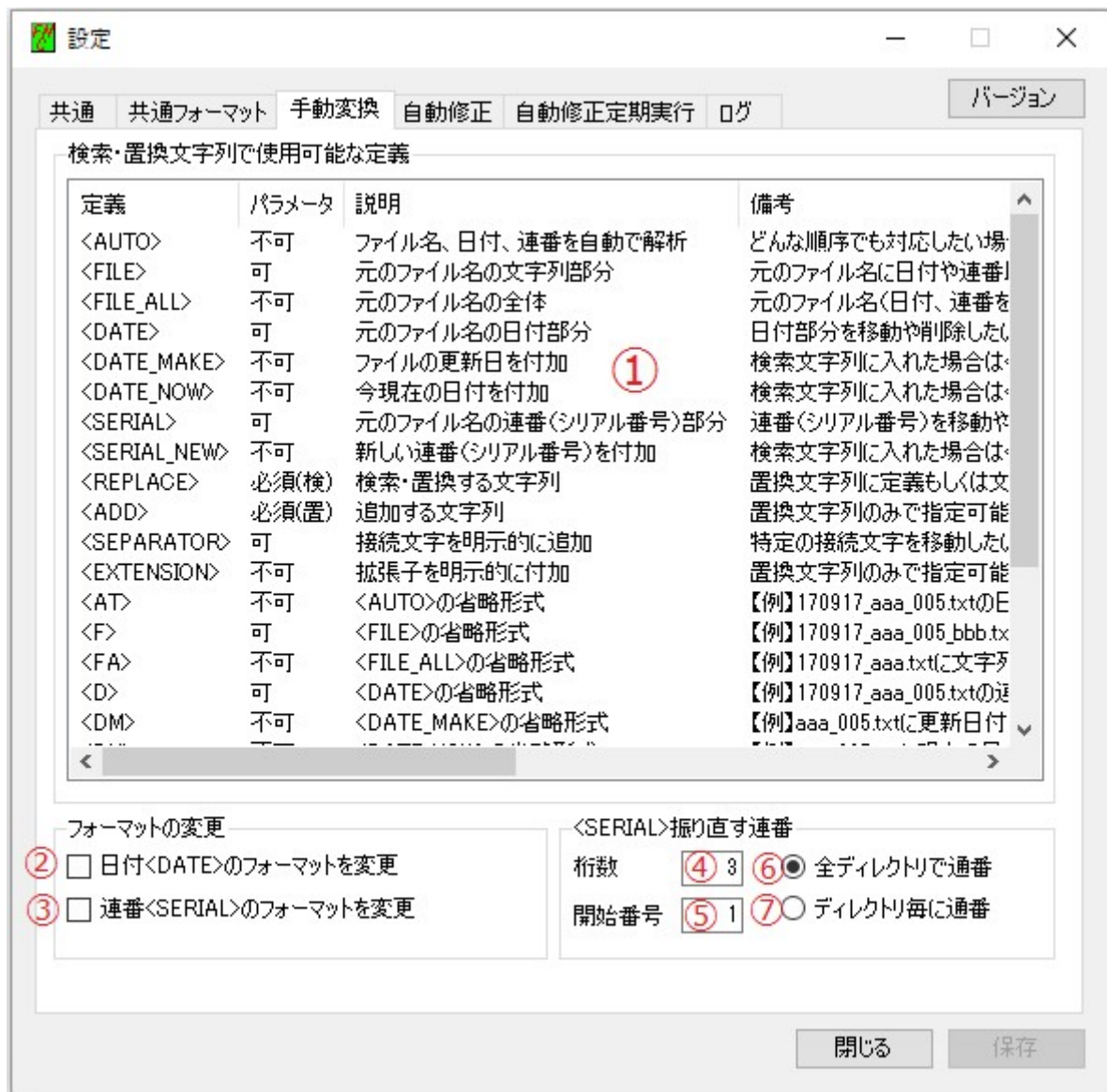


図 17 設定画面「手動変換」タブ

① 「検索・置換文字列で使用可能な定義」リスト

日付や連番のフォーマットや順序を制御するための定義値を示すリスト。

定義値は、正式な形式と省略形式がある。

※コンテキストメニュー有り。ダブルクリック、リターンキーでメイン画面の検索文字列へ、Ctrl キーもしくは Shift キーを押しながらダブルクリック、リターンキーでメイン画面の置換文字列へ入力される。

各項目の内容は下表の通り。

表 6 「検索・置換文字列で使用可能な定義」リストの項目

項目	値	内容
定義	ツール画面参照	検索文字列、置換文字列に入力できる定義値 上側に正式名、下側に省略形式を記載
パラメータ	可	検索文字列、置換文字列で定義値の後に文字列の入力が可能であることを示す。 定義：<F>、<S>、<D>、<SP> 順序を識別するための文字列（なんでも可）を定義値の後に入力することで、順序の入れ替えなどを行う場合に使用する。 入力無しでも使用可能で、元の順序を元に変換される。
	必須(置)	置換文字列で定義値の後に文字列の入力が必須であることを示す。 定義：<AD> 追加する文字列を入力する
	必須(検)	検索文字列で定義値の後に文字列の入力が必須であることを示す。 定義：<R> 検索文字列に入れた文字列を、置換文字列に入れた文字列に置換する。 置換文字列では空文字・定義無しで削除扱いとなるため、検索文字列にのみ必須。
	不可	検索文字列、置換文字列で定義値の後に文字列の入力が不可能であることを示す。
説明	—	定義値の説明
備考	—	上側に正式名では、説明の補足を記載。 下側の省略形式では、使用例を記載。

- ② 「フォーマット変更」「日付<DATE>のフォーマットを変更」チェックボックス
手動変換（定義値使用）時に日付のフォーマットを変更する場合にチェックする。
※フォーマットについては、「5.2.2 「共通フォーマット」タブ」を参照
- ③ 「フォーマット変更」「連番<SERIAL>のフォーマットを変更」チェックボックス
手動変換（定義値使用）時に日付のフォーマットを変更する場合にチェックする。
※フォーマットについては、「5.2.2 「共通フォーマット」タブ」を参照
- ④ 「<SERIAL>振り直す連番」桁数入力欄
定義値「<SERIAL_NEW>」（省略形式「<SN>」）を使用する場合に付加する連番の桁数を入力する。
- ⑤ 「<SERIAL>振り直す連番」開始番号入力欄
定義値「<SERIAL_NEW>」（省略形式「<SN>」）を使用する場合に付加する連番の開始番号を入力する。
- ⑥ 「<SERIAL>振り直す連番」「全ディレクトリで通番」チェックボックス
定義値「<SERIAL_NEW>」（省略形式「<SN>」）を使用する場合に付加する連番を全ディレクトリ

で通番とする場合にチェックする。

- ⑦ 「<SERIAL>振り直す連番」「ディレクトリ毎に通番」チェックボックス
定義値「<SERIAL_NEW>」（省略形式「<SN>」）を使用する場合に付加する連番をディレクトリ毎に通番（ディレクトリ毎の初期値は⑤）とする場合にチェックする。

5.2.3.1 「手動変換」タブのコンテキストメニュー

「検索・置換文字列で使用可能な定義」リストで表示されるコンテキストメニュー。

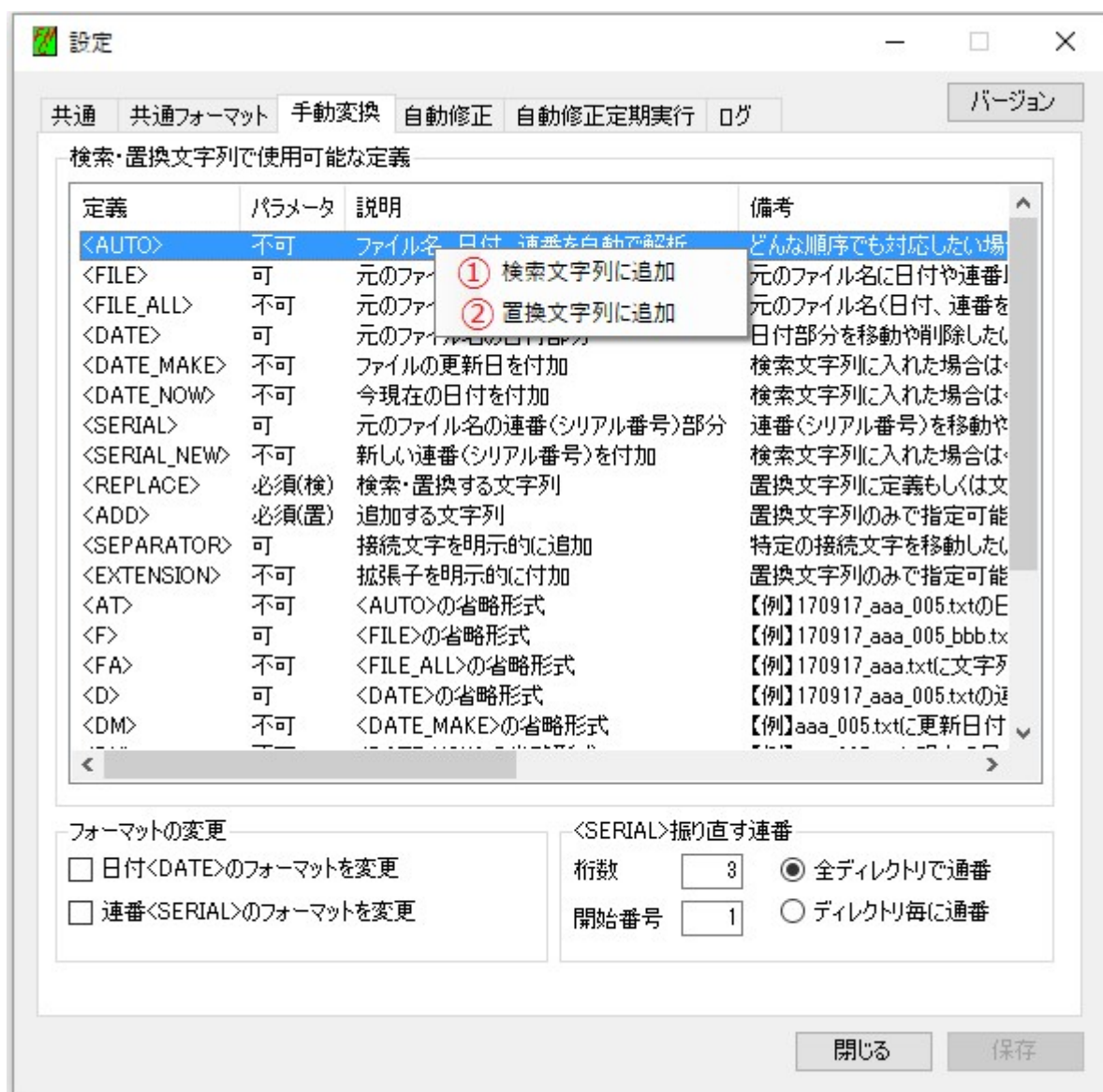


図 18 設定画面「手動変換」タブのコンテキストメニュー

⑧ 「検索文字列に追加」

選択した項目の定義値をメイン画面の検索文字列入力欄に追加する。

※ダブルクリックやリターンキーでも追加可能

⑨ 「置換文字列に追加」

選択した項目の定義値をメイン画面の置換文字列入力欄に追加する。

※ダブルクリックやリターンキーでも追加可能

5.2.4 「自動修正」タブ

自動修正固有の設定を行う画面。

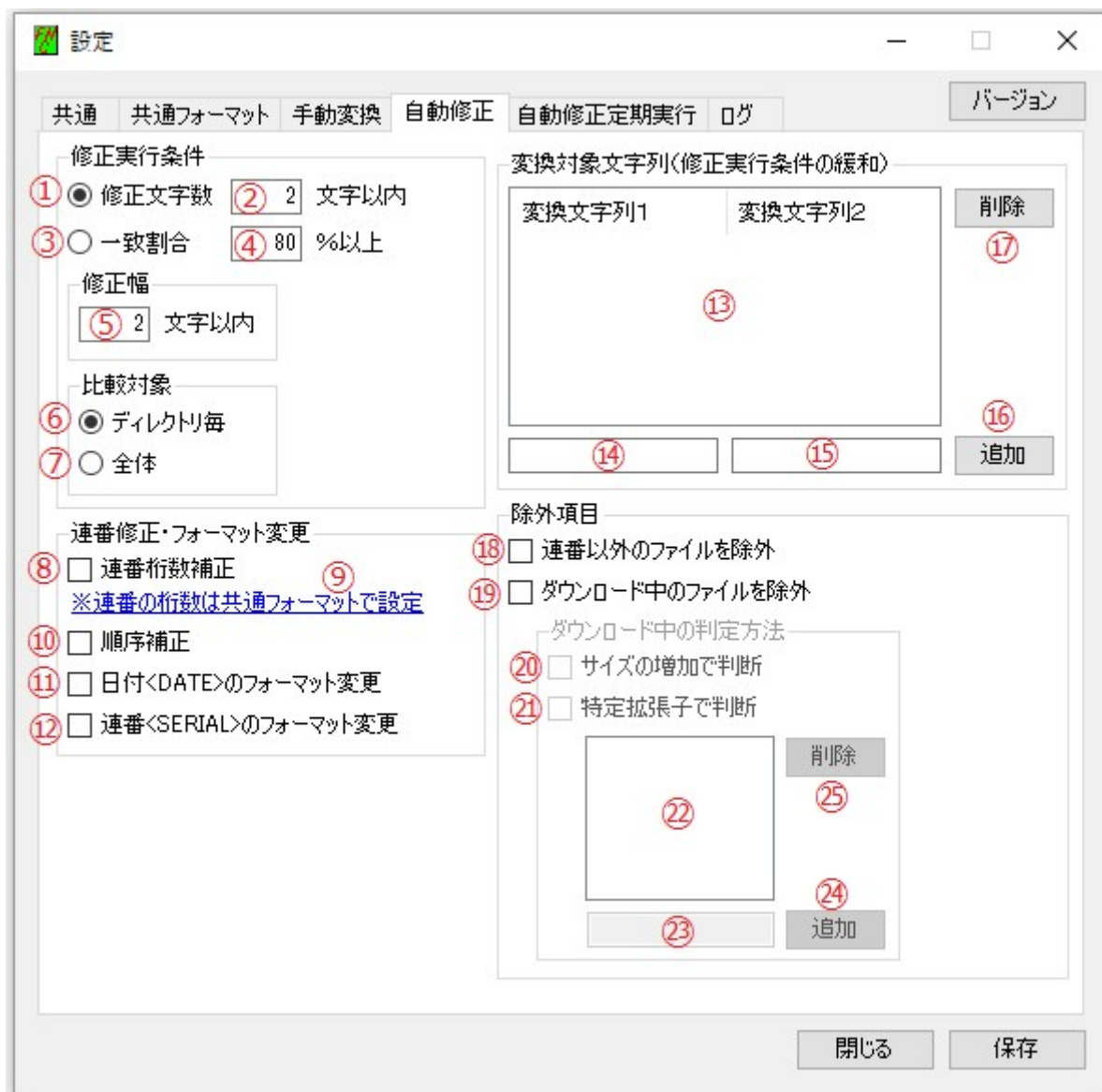


図 19 設定画面「自動修正」タブ

- ① 「修正条件」「修正文字数」ラジオボタン
修正条件として、文字数指定する場合にチェックする。
- ② 「修正条件」「修正文字数」文字数入力欄
自動修正で修正可能な文字数を入力する。
- ③ 「修正条件」「一致割合」ラジオボタン
修正条件として、一致する割合を指定する場合にチェックする。
- ④ 「修正条件」「一致割合」入力欄

自動修正で修正可能な一致部分の割合を入力する。

※日付・連番を除くファイル名部分の文字数の一致の割合のため、注意が必要。

⑤ 「修正条件」「修正幅」入力欄

ファイル名の修正時に修正する際の判定の幅を入力する。

連番桁数補正時の連番桁数範囲をオーバーした連番を範囲内に補正する場合の超過桁数、及び、一致判定時の不一致部分を読み飛ばす文字数として使用される。

※基本的には変更しないこと。大きな値を設定した場合、余計に不一致扱いとなる可能性がある。

⑥ 「修正条件」「比較対象」「ディレクトリ毎」

ファイル名を修正する際、比較をディレクトリ内だけで行う場合にチェックする。

※解析の時間が短縮される

例：異なるディレクトリに `abcdef_001.txt` と `xbcddef_002.txt` が有った場合、修正対象とならない。

⑦ 「修正条件」「比較対象」「全体」

ファイル名を修正する際、比較を指定したもの全体で行う場合にチェックする。

※解析に時間がかかる

例：異なるディレクトリに `abcdef_001.txt` (多い) と `xbcddef_002.txt` (少ない) が有った場合、修正対象となり一致数の多い方に変換 (`xbcddef_002.txt`→`abcdef_002.txt`) される。

⑧ 「連番修正・フォーマット変更」「連桁数補正」チェックボックス

連番桁数を補正 (統一) させる場合にチェックする。

補正の際、基本的には、一致数の多い桁数に合わせる。その際、桁数の多いファイルの先頭の「0」が削除され、桁数を合わせるが、桁数の多いファイルの先頭が「0」以外の場合、他のファイルの桁数を多いファイルに合わせる。

例：001～999 までの連番ファイルと 0004 の連番ファイルがある場合

0004 の連番ファイルを 004 に修正

例：001～999 までの連番ファイルと 1000 の連番ファイルが有る場合

001～999 の連番ファイルを 0001～0999 に修正

⑨ 「連番修正・フォーマット変更」「連桁数補正」コメント

設定画面の「共通フォーマット」タブを表示する。

⑩ 「連番修正・フォーマット変更」「順序補正」チェックボックス

日付・連番・ファイル名部分の位置を補正 (統一) させる場合にチェックする。

対応するものが無い場合は、空白となる。

例：<日付><ファイル名><連番>の複数ファイル、
<ファイル名><連番><日付>のファイル1つ、
<ファイル名><日付>のファイルが1つ がある場合

<ファイル名><連番><日付> を <日付><ファイル名><連番> に修正
<ファイル名><日付> を <日付><ファイル名> に修正（連番無し）

- ⑪ 「連番修正・フォーマット変更」「日付<DATE>のフォーマット変更」チェックボックス
日付のフォーマットを変更する場合にチェックする。

※フォーマットの設定については「5.2.2 「共通フォーマット」タブ」を参照

- ⑫ 「連番修正・フォーマット変更」「連番<SERIAL>のフォーマット変更」チェックボックス
連番のフォーマットを変更する場合にチェックする。

※フォーマットの設定については「5.2.2 「共通フォーマット」タブ」を参照

- ⑬ 「変換対象文字列」リスト欄

ファイル名の一致判定を行う際に、一致と判断する文字列のリストを表示する。

例：「aaa・コピー」（コピーファイル）、「aaa」（元ファイル）は同じファイル名として扱う場合

変換文字列 1：「・コピー」 変換文字列 2：「」（空白）

例：「aaa_bbb」と「aaa-bbb」は同じファイル名として扱う場合

変換文字列 1：「_」 変換文字列 2：「-」

例：「aaa bbb」と「aaa-bbb」は同じファイル名として扱う場合

変換文字列 1：「」（スペース） 変換文字列 2：「-」

- ⑭ 「変換対象文字列」文字列 1 入力欄

ファイル名の一致判定を行う際に、一致と判断する文字列を入力する。

※入力しただけでは使用できないため、「追加」ボタンでリストに追加すること。

- ⑮ 「変換対象文字列」文字列 2 入力欄

ファイル名の一致判定を行う際に、一致と判断する文字列を入力する。

※入力しただけでは使用できないため、「追加」ボタンでリストに追加すること。

- ⑯ 「変換対象文字列」「追加」ボタン

ファイル名の一致判定を行う際に、一致と判断する文字列をリストに追加する。

- ⑰ 「変換対象文字列」「削除」ボタン

選択した項目をリストから削除する。

- ⑱ 「除外項目」「連番以外のファイルを除外」チェックボックス

連番以外のファイルを変換対象外にする場合にチェックする。

※連番以外のファイルを変換すると必ず同じファイル名になってしまうため、連番以外のファイルが多い場合はチェックすること。

- ⑲ 「除外項目」「ダウンロード中のファイルを除外」チェックボックス
ダウンロード中のファイルのファイル名を変更したくない場合にチェックする。
- ⑳ 「除外項目」「ダウンロード中の判定方法」「サイズの増加で判定」チェックボックス
ダウンロード中のファイルの判定として、ファイルサイズが増加した場合にダウンロード中と判定する場合にチェックする。
- 21 「除外項目」「ダウンロード中の判定方法」「特定拡張子で判定」チェックボックス
ダウンロード中のファイルの判定として、ファイル名+特定の拡張子のファイル（一時記憶ファイル）がある場合にダウンロード中と判定する場合にチェックする。
- 22 「除外項目」「ダウンロード中の判定方法」「特定拡張子で判定」拡張子リスト
ダウンロード中のファイルと判定する特定の拡張子のリストを表示する。

表 7 ダウンロード中の一時記憶ファイル例

ツール名	作成される一時ファイルの拡張子	設定
FireFox	.part	.part
Edge	.XXXX.partial (XXXX はランダム)	.*.partial

- 23 「除外項目」「ダウンロード中の判定方法」「特定拡張子で判定」入力欄
ダウンロード中のファイルと判定する特定の拡張子を入力する。
- 24 「除外項目」「ダウンロード中の判定方法」「特定拡張子で判定」「追加」ボタン
入力欄に入力された特定の拡張子をリストに追加する。
- 25 「除外項目」「ダウンロード中の判定方法」「特定拡張子で判定」「削除」ボタン
選択された項目をリストから削除する。

5.2.5 「自動修正定期実行」タブ

自動修正を定期的に行うための設定と、開始、停止の制御を行う画面。

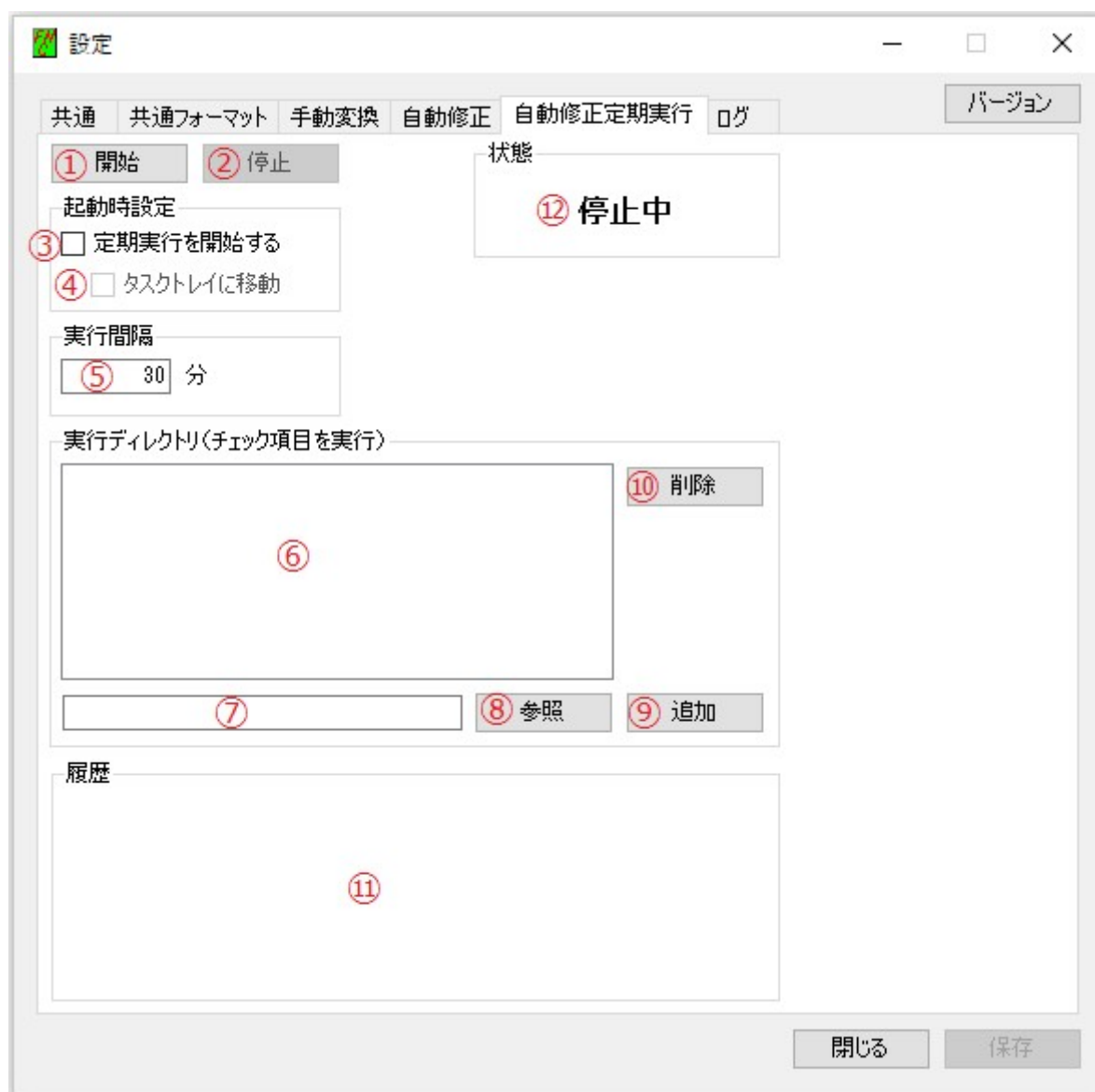


図 20 設定画面「自動修正定期実行」タブ

- ① 「開始」ボタン
定期実行のタイマ監視を行う場合に押下する。
※⑪に開始の履歴、⑫に「監視中」と表示される。
- ② 「停止」ボタン
定期実行のタイマ監視を停止する場合に押下する。
※⑪に停止の履歴、⑫に「停止中」と表示される。
- ③ 「起動時設定」「定期実行を開始する」チェックボタン
ツール起動時に自動的に定期自動修正を開始する場合にチェックする。

- ④ 「起動時設定」「タスクトレイに移動」チェックボタン
③をチェックし、ツール起動した場合、ツールをタスクトレイに移動したい場合にチェックする。
- ⑤ 「実行間隔」入力欄
自動修正を行う間隔を入力する。単位は分。
※開始からこの時間経過時、⑥でチェックが付いているディレクトリに対して自動修正が実行される。
- ⑥ 「実行ディレクトリ」チェックリスト
自動修正を行うディレクトリのリスト。チェックされているディレクトリのみ実行される。
※コンテキストメニュー有り（時間を待たずに直接実行することも可能）。D&D 可能。
- ⑦ 「実行ディレクトリ」入力欄
自動修正を行うディレクトリを入力する。
※リターンキーで登録
- ⑧ 「実行ディレクトリ」「参照」ボタン
「フォルダーの参照」画面を開き、選択したディレクトリを⑥のチェックリストに追加する。
- ⑨ 「実行ディレクトリ」「追加」ボタン
⑦で入力されたディレクトリをチェックリストに追加する。
- ⑩ 「実行ディレクトリ」「削除」ボタン
⑥のチェックリストで選択された項目を削除する。
- ⑪ 「履歴」欄
定期自動修正の開始、停止、実行、実行されたディレクトリの表示を行う。
※ツールを再起動した場合は初期化される。
- ⑫ 「状態」欄
定期自動修正の実行状態を表示する。表示されるのは「開始中」、「停止中」。

5.2.5.1 「自動修正定期実行」タブのコンテキストメニュー

「実行ディレクトリ」チェックリストで表示されるコンテキストメニュー。

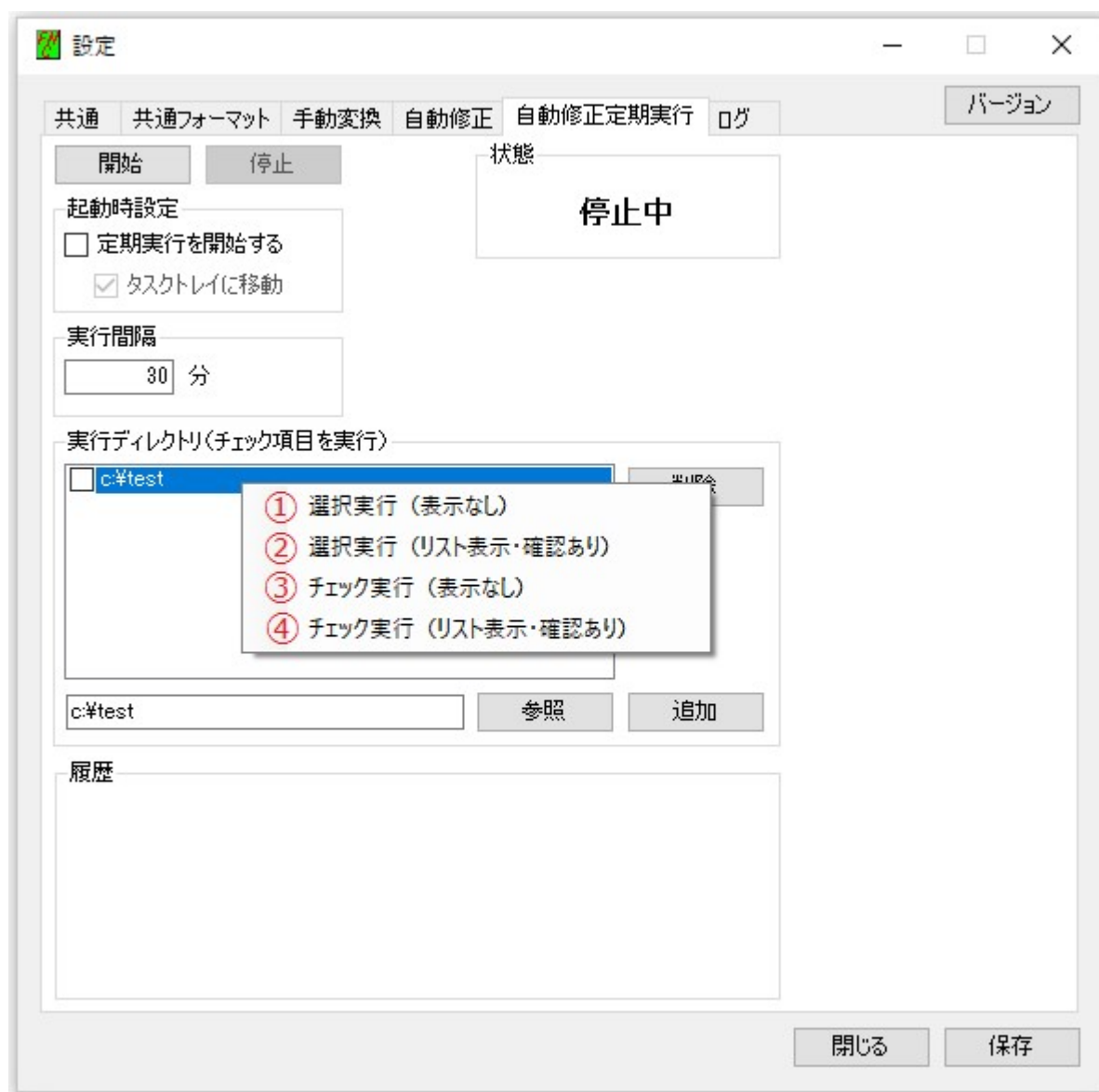


図 21 設定画面「自動修正定期実行」タブのコンテキストメニュー

- ① 「選択実行 (表示なし)」
チェックリストで選択したディレクトリを表示なしで実行する。
※複数選択不可
- ② 「選択実行 (リスト表示・確認あり)」
チェックリストで選択したディレクトリをリスト表示あり、確認画面ありで実行する。
※メイン画面で表示されているディレクトリが実行したディレクトリに更新される。
※複数選択不可
- ③ 「チェック実行 (表示なし)」

チェックリストでチェックされているディレクトリを表示なしで実行する。

※複数実行可

④ 「選択実行（リスト表示・確認あり）」

チェックリストでチェックされているディレクトリをリスト表示あり、確認画面ありで実行する。

※メイン画面で表示されているディレクトリが実行した“先頭”のディレクトリに更新される。

※複数実行可

5.2.6 「ログ」タブ

自動修正を定期的に行うための設定と、開始、停止の制御を行う画面。

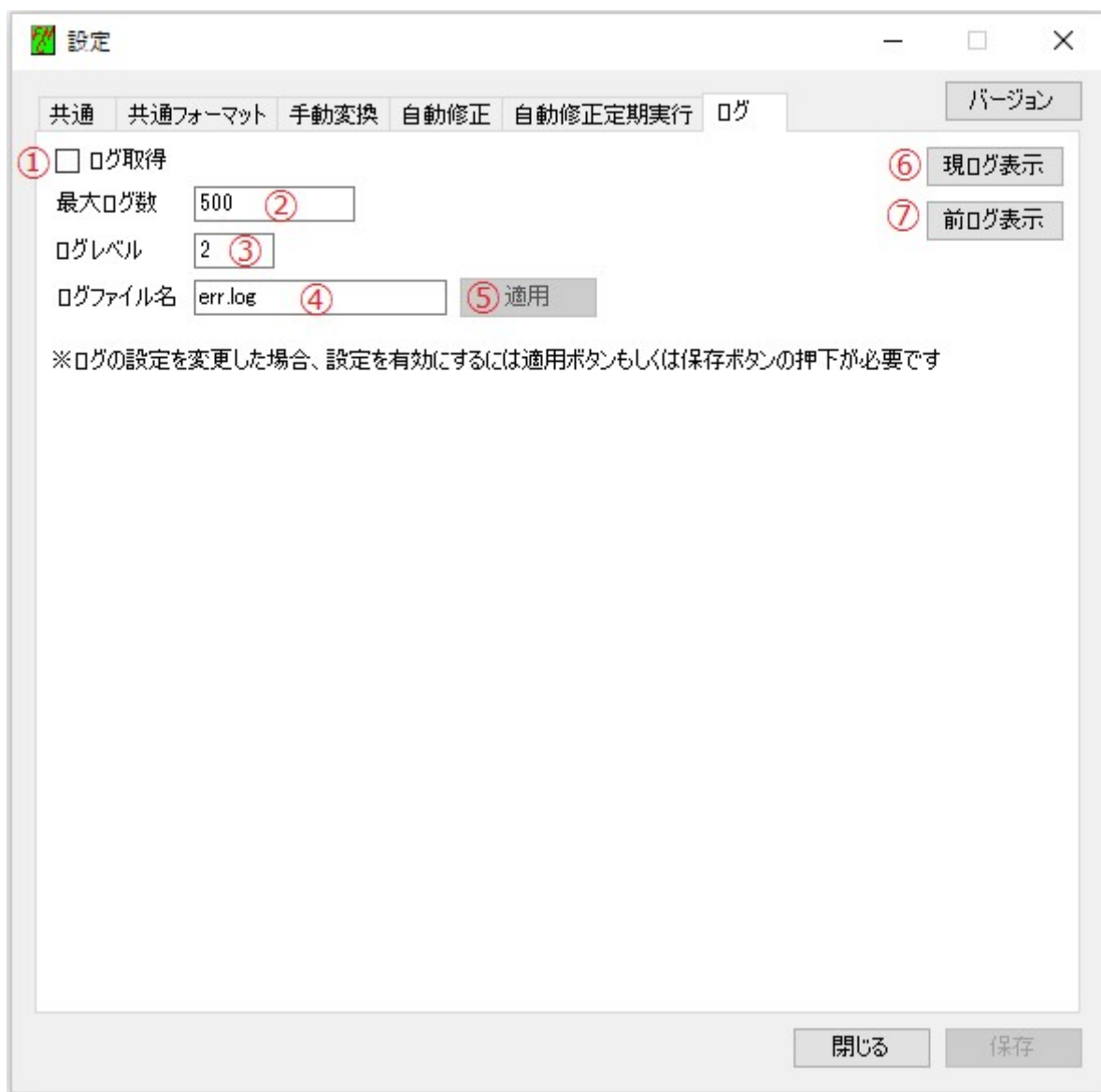


図 22 設定画面「ログ」タブ

- ① 「ログ取得」チェックボックス
ログを出力する場合にチェックする。
- ② 最大ログ数入力欄
ログファイルに出力するログの最大数を入力する。
この数を超えた場合は、今までのログファイルがバックアップ（「_old」）され、新規ファイルを作成する。
- ③ ログレベル入力欄
ログファイルに出力するログのレベルを設定する。

各ログレベルで出力される内容は以下の通り。

表 8 ログ出力内容

ログレベル	出力内容	タイミング
1	起動・終了	ユーザ操作 シャットダウン
2	レベル 1 + 変換の実行・終了ログ、エラー	ユーザ操作 定期実行
3	レベル 2 + 変換のキャンセルログ、変換の内容ログ	ユーザ操作 定期実行
4	レベル 3 + ワーニング	ユーザ操作 定期実行
5	レベル 4 + トレース（デバッグレベル）	ユーザ操作 定期実行

④ ログファイル名入力欄

出力するログのファイル名を入力する。

※パスの省略、フルパス指定が可能

⑤ 「適用」 ボタン

変更した設定を適用する場合に押下する。

設定を変更した場合に活性、適用した場合に非活性となる。

⑥ 「現ログ表示」 ボタン

現在出力しているログファイルを表示する場合に押下する。

※起動されるツールは Windows 設定に依存

⑦ 「前ログ表示」 ボタン

前回ツール起動時に出力したログファイルを表示する場合に押下する。

※起動されるツールは Windows 設定に依存

5.3 バージョン画面

現バージョンの表示や最新バージョンの表示、最新ファイルのダウンロードを行う。

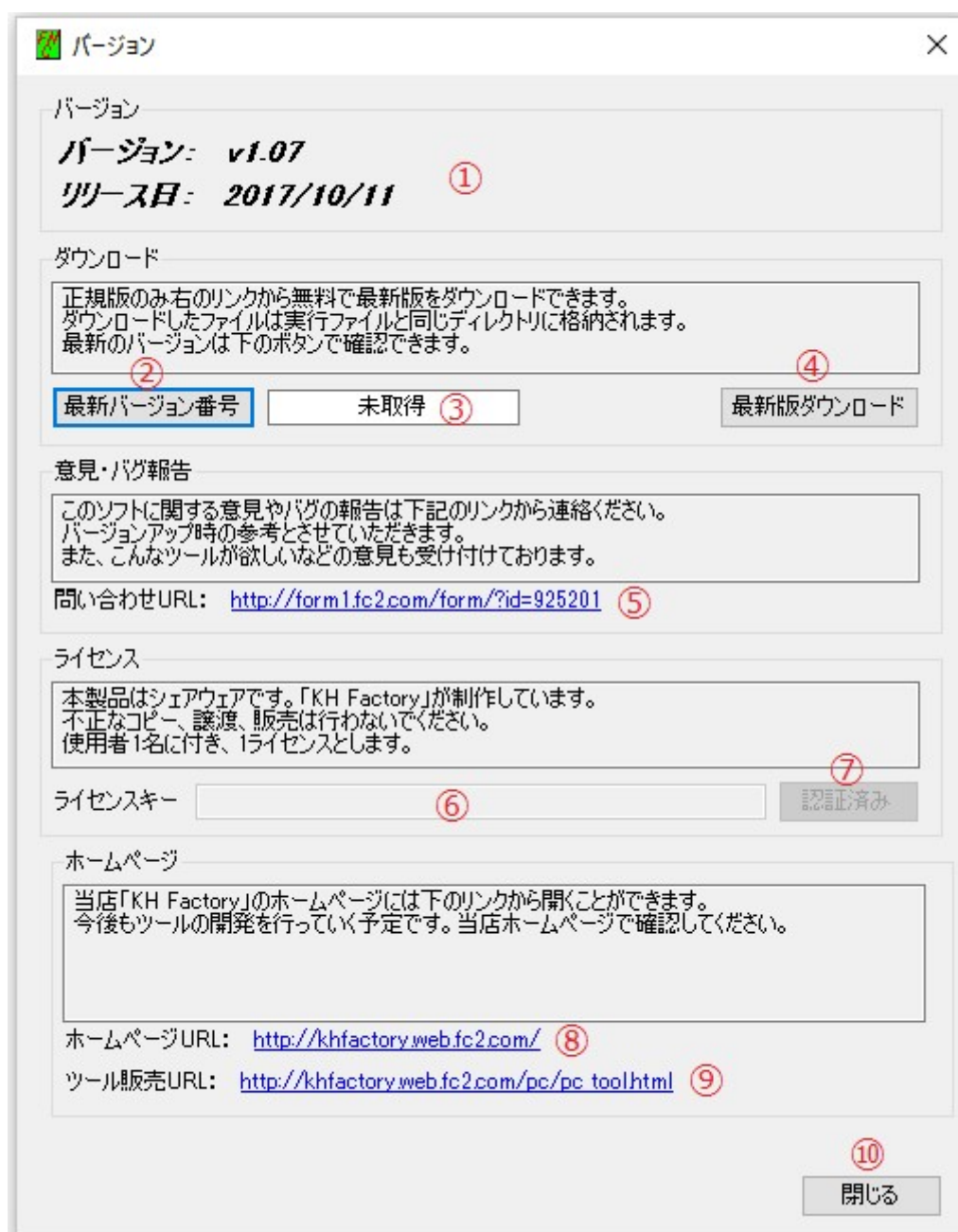


図 23 バージョン画面

- ① 「バージョン」
起動しているツールのバージョン番号とリリース日を表示する。
- ② 「ダウンロード」「最新バージョン番号」ボタン
最新バージョン番号をネット経由で取得し、最新バージョン番号表示欄に表示する。

- ③ 「ダウンロード」 最新バージョン番号表示欄
取得したバージョン番号を表示する。
- ④ 「ダウンロード」「最新版ダウンロード」 ボタン
最新版をネット経由でダウンロードする。最新版が使用されている場合はダウンロードするか確認される。
実行場所にバージョンを問わず同名（DirectoryFileSearch_NewVer.zip）の圧縮ファイルが保存されるため、旧バージョンのファイルがある場合は上書きの確認をされる。
最新バージョンでは不具合がある可能性があるため、旧バージョンの保存を推奨。
- ⑤ 「意見・バク報告」問い合わせ URL
「お問い合わせフォーム」 のリンク。
※ウェブブラウザは Windows 設定に依存（注 4）
- ⑥ 「ライセンス」 ライセンスキー入力欄
ライセンスキーを入力する。
ライセンスキーの登録が完了すると非活性となる。
- ⑦ 「ライセンス」「登録」 ボタン
ライセンスキーを登録する。
ライセンスキーの登録が完了すると「認証済み」となり、非活性となる。
- ⑧ 「ホームページ」 ホームページ URL
「KH Factory」 のホームページのリンク。
※ウェブブラウザは Windows 設定に依存（注 4）
- ⑨ 「ホームページ」 ツール販売 URL
「KH Factory」 のホームページのツール販売へのリンク。
※ウェブブラウザは Windows 設定に依存（注 4）
- ⑩ 「閉じる」 ボタン
バージョン画面を閉じる。

5.4 最小化時の監視画面

監視画面を最小化した場合、タスクバーから削除され、タスクトレイに移動する

最初はパターン1のように画面右下に外に表示されるが、Windows のバージョンによっては時間が経つとパターン2のように中に格納される。

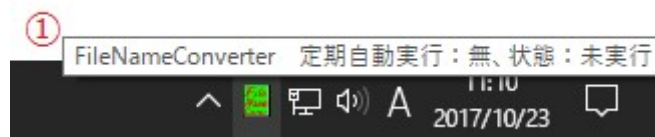


図 24 最小化時の監視画面（パターン1）

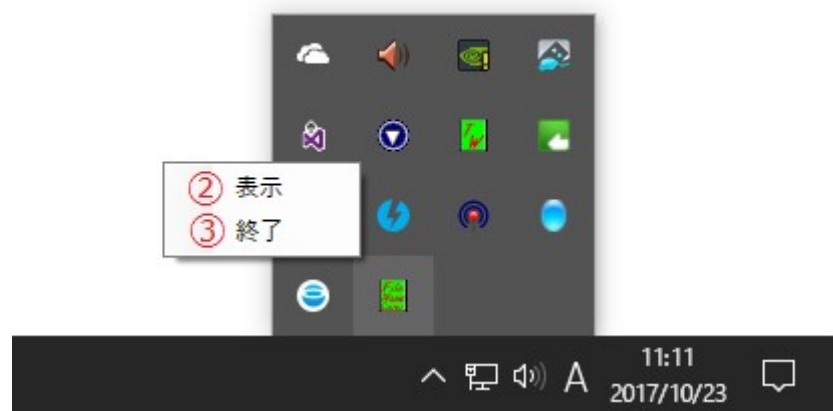


図 25 最小化時の監視画面（パターン2）

【マウスカーソルを合わせた場合】

① 状態表示

定期自動実行の有無、実行状態が表示される。

【右クリックでコンテキストメニューを表示した場合】

② 「コンテキストメニュー」「表示」

監視画面が最大化される。

③ 「コンテキストメニュー」「終了」

ツールが終了する。

6 注釈説明

6.1 (注1) 日付フォーマットについて

日付のフォーマットはプログラム上でのデフォルトは「2017/10/25 13:10:56」というような形式が標準ですが、「/」や「:」はファイル名で使えないため、「20171025」や「171025」と記述したり、人それぞれ違うと思います。

そのため、本ツールでは、フォーマットを個人でカスタマイズできるように対応しております。

対応範囲は「2017/10/25 13:10:56」内で、ミリ秒は対応しておりません。また、西暦から和暦への変換(2017年→平成29年)も行えるように対応しております。

ツールの初期値として、

表 9 日付の対応フォーマット (初期値)

区切り無し	年月日	ドット区切り	和暦
「20171025」	「2017 年 10 月 25 日」	「2017.10.25」	「平成 29 年 10 月 25 日」
「171025」	「17 年 10 月 25 日」	「17.10.25」	「H.29.10.25」
「1025」	「10 月 25 日」	「10.25」	「昭和 29 年 10 月 25 日」 「S.29.10.25」

が対応しております。

上記以外のフォーマットを追加したい場合は「6.1.1 日付フォーマットの追加」を参照ください。

6.1.1 日付フォーマットの追加

設定ファイルの「\$DATE_FORMAT\$」行を編集・追加することで日付のフォーマットを変更することができます。区切り文字としてメイン「/」、サブ「:」を使用します。

初期値の例として、

(西暦) : \$DATE_FORMAT\$=ドット区切り[西暦 4 桁]月日/2:2:2:2:0:0//.:.:./False

(和暦) : \$DATE_FORMAT\$=和暦[平成]/0:2:2:2:0:0/平成/:年:月:日::/True

上記の設定内容は、

表 10 日付フォーマットのパラメータ

リストの 表示※	フォーマット (有効桁数)							先頭 文字※	後ろ文字※							チェックリスト へのチェック
	年	年	月	日	時	分	秒		年	年	月	日	時	分	秒	
ドット区切り [西暦 4 桁] 月日	2	2	2	2	0	0	0			.	.					True
和暦[平成]	0	2	2	2	0	0	0	平成		年	月	日				True

※文字列は何でも可

※フォーマットの年部分は上位 2 桁と下位 2 桁に別れているので注意。和暦の場合は下位 2 桁を使用。

仮に時・分・秒のフォーマットと、新しい年号（例：[希望]）（変換テーブルが必要）を作成する場合、

表 11 日付フォーマットの追加例

リストの 表示※	フォーマット（有効桁数）							先頭 文字※	後ろ文字※							チェックリスト へのチェック
	年	年	月	日	時	分	秒		年	年	月	日	時	分	秒	
時分秒	0	0	0	0	2	2	2						h	m	s	True
和暦[希望]	0	2	2	2	0	0	0	希望		年	月	日				True

上記を設定形式で記述すると、

\$DATE_FORMAT\$=時分秒/0:0:0:0:2:2:2//:::h:m:s/True

\$DATE_FORMAT\$=和暦[希望]/0:2:2:2:0:0:0/希望/:年:月:日::/True

です。

ただし、年号を追加する場合、変換テーブルの設定が必要です。（「6.1.2 年号の変換テーブルの追加」を参照）

また、区切り文字の数は固定です。メイン「/」4個、サブ「:」6個は変更しないでください。

6.1.2 年号の変換テーブルの追加

設定ファイルの「\$DATE_ERA_NAME\$」行を編集・追加することで未設定の年号が使用可能となります。

（ただし、平成の次の新しい年号の場合、再コンパイル版にバージョンアップしないと出来ないかもしれません）

設定する値は、正式名称と解析時に対応する文字列（複数、制限なし）となります。

平成の例は

\$DATE_ERA_NAME\$=平成/平成:H:H:

です。

新年号を追加する場合、正式名称として例：希望、解析時に対応する文字列（日付フォーマットに追加した文字列）が、「希望」と「K.」と「K」とした場合

\$DATE_ERA_NAME\$=希望/希望:K:K:

を追加してください。

「:」区切りでいくつも設定が可能です。日付フォーマットで「平成」のいろいろな形式（「h.」、「Heisei」、「へいせい」）を追加した場合、

\$DATE_ERA_NAME\$=平成/平成:H:H:h:Heisei:へいせい:

となります。

ただし、各設定の「解析時に対応する文字列」の数は合わせるようにお願いいたします。

6.1.3 チェックリストのサンプル表示

設定画面「共通フォーマット」タブの「日付形式」リスト上ではサンプル表示が自動付加されます。

例えば、「ドット区切り[西暦 4 桁]月日」の場合、ツール起動時の日付「(2017.10.25)」が自動付加されます。

年号の場合、ツール起動時の日付となりますので、平成（現状）でのサンプル表示となります。

6.1.4 日付の解析について

不要なフォーマットの解析は避けられるようにチェック方式としています。一応、00 月、13 月や 00 日、32 日などあり得ないものは連番扱いとしていますが、区切り無しの「171025」などは連番と混同するための対応です。

また、1 文字ずつ解析していますので、解析に時間がかかる場合、不要なフォーマットはチェックを外すようにしてください。

日付自体を使用しない場合は、設定画面「共通フォーマット」タブの「DATE 有効」のチェックを外してください。

6.1.5 設定の初期化

設定が無い場合は、初期値を表示する様になっております。

設定ファイルを削除（もしくはリネーム）するか、

- ・日付フォーマットの設定を初期化したい場合：設定ファイル内の「\$DATE_FORMAT\$」行を全て削除
- ・年号の設定を初期化したい場合：設定ファイルの「\$DATE_ERA_NAME\$」行を全て削除してください。

7 あとがき

7.1 バグを発見した場合

基本動作の確認はしておりますが、潜伏バグが残っている場合やデグレート（バク対応により既存部分が壊れる）が発生する場合があります。

ご連絡いただければ順次対応しバージョンアップしますので、下記お問い合わせフォームにてご連絡をお願いいたします。

7.2 ご意見・ご要望

使い勝手を良くするためのバージョンアップを重ねております。

このツールに対するご意見、ご要望がありましたらお問い合わせフォームよりご連絡をお願いいたします。

また、「こんなツールがあると便利」というような意見もありましたらご連絡下さい。

7.3 各種 URL

ホームページに、他のツールも載せております。ご参考いただけると幸いです。

ホームページ：<http://khfactory.web.fc2.com/>

ツール販売：http://khfactory.web.fc2.com/pc/pc_tool.html

お問い合わせフォーム；<http://form1.fc2.com/form/?id=925201>

※バージョン画面にも同リンクが張られております。

マニュアルをご覧くださいありがとうございました。

8 更新履歴

日付	バージョン	説明
2017/10/26	1.07	マニュアル初版作成